平成24~25年度

愛知県立大学グローバル人材育成推進事業

外部評価·実績報告書



平成 24~25 年度 愛知県立大学グローバル人材育成推進事業 外部評価・実績報告書

目次

はじめに	
グローバル人材育成推進事業外部評価	i
[平成 24~25 年度愛知県立大学グローバル人材育成推進事業実績報	告書]
1. 本報告書の発行によせて	1
2. グローバル人材育成推進室	3
3. グローバル人材育成推進事業	4
4. iCoToBa(多言語学習センター)	13
5. 学修支援	32
5-1. e-Learning プログラム	32
5-2. インターネットポートフォリオ	36
5-3. 語学学習アドバイジング	42
6. 語学検定	45
7. 留学および支援体制	49
7-1. 学術交流協定大学の協定締結と単位認定留学	49
7-2. 留学アドバイジング	52
7-3. 留学中の学習支援	54
7-4. 国際交流室による留学支援	56
7-5. 留学中のリスク管理	58
8. 学術交流協定大学留学生対象プログラム	61

66

9. インターンシップ

10.	講演会・セミナー	70			
11.	情報発信	77			
12.	入試制度の改革	84			
13.	. グローバルキャンパスへの取り組み				
14.	資料	92			
14	-1. グローバル人材育成推進室会議開催一覧	92			
14	-2. iCoToBa 委員会開催一覧	94			

はじめに

本書は、平成24年9月に採択された文部科学省グローバル人材育成推進事業について、 平成26年3月10日に実施した事業評価委員会で報告した取り組みと外部評価をまとめたも のである。

本事業を多面的角度から評価していただくために、有識者に外部評価委員をお願いした。 言語学および公立大学の立場から北九州市立大学副学長の漆原朗子先生、名古屋地区で 本学と同じくグローバル人材育成推進事業に採択され、その運営に携わっておられる愛知大 学現代中国学部長の安部悟先生、中部地方の産業界を代表して中部経済連合会常務理事 事務局長の小川正樹様、国際教育に実績を持つ地域の高等学校として、愛知県立千種高等 学校長加藤滋伸先生、そして本学卒業生の代表として外務省・外交史料館元館長の石田訓 夫様の 5 名である。事業評価委員会では本学の取り組みについて、多くの改善点も含めて有 益な意見と指摘を頂いた。委員の皆様に感謝の意を表したい。

本報告書の発行が、本学のグローバル人材育成推進事業を広く知っていただく契機となり、 グローバル人材育成に関心を持つ方々からの忌憚のないご意見をお聞かせ願えれば幸いで ある。愛知県立大学のグローバル教育の向上のためにも、今後も改善に努めたいと考えてい る。

諸事により本報告書の刊行が遅れたことをお詫びいたします。

平成 26 年 6 月

前 愛知県立大学グローバル人材育成推進室長 外国語学部教授 堀 一郎

グローバル人材育成推進事業 外部評価

グローバル人材育成推進事業外部評価

1. 概要

平成26年3月10日、グローバル人材育成推進事業評価委員会を開催した。本委員会では、平成24年度から25年度にかけての本学の取り組みについて、5名の外部評価委員から、客観的に評価していただくと共に、今後の取り組みの課題の整理を行った。

[外部評価委員]

漆原 朗子氏 (公立大学法人北九州市立大学 副学長)

安部 悟氏 (愛知大学現代中国学部 学部長)

小川 正樹氏 (中部経済連合会 常務理事 事務局長)

石田 訓夫氏 (外務省外交史料館 元館長、本学卒業生)

加藤 滋伸氏 (愛知県立千種高等学校 校長) ※委員会は欠席

2. 外部評価報告

①漆原 朗子氏 (公立大学法人北九州市立大学 副学長)

[全般的評価]

『平成 24~25 年度グローバル人材育成推進事業実績報告書』(以下「報告書」という。)、および平成 26年3月10日(月)13:00-15:00 開催の外部評価委員会・実地視察を総合的に判断した結果、貴学外国語学部における本取組は進取の気性あふれる独創的な事業展開となっていると考える。また、語学学習、留学、入試などにおける数値目標も達成された部分も多く、一定の実績を上げている。それらの点から、本取組は大変高く評価できる。

[個別取組への評価]

- ・グローバル人材育成室(報告書 p. 3):外国語学部関係教員に加え、職員を多角的に組織しており、教職協働を実体化している。
- ・グローバル人材育成推進事業(報告書 pp. 3-12):4目的を明確に設定の上、それぞれを実現化するための具体的方策が工夫されている。特に、留学前→留学中→留学後という「学びの3段階」に対応する体系的プログラムは、参加学生はもとより教職員にとっても当該事業への意識の覚醒と意思の持続(マインドセット)に多大な効果を持つと評価できる。
- ・iCoToBa(多言語学習センター)(報告書 pp. 13-31)、語学検定(報告書 pp. 45-48):英語のみならずフランス語、ドイツ語、中国語を専攻する学生を有する外国語学部としての特色が最大限に生かされた取組であり、きわめて高く評価する。昨今の社会や経済界の動向、および今般の「グローバル人材育成推進事業」がややもすれば英語一辺倒に偏りがちな中、多言語主義、ひいては多文化主義は重要である。今後は様々な工夫でiCoToBa利用者を拡大し、裾野を広げ、その結果として複数言語の語学検定の受験率の向上が期待される。
- •学修支援(報告書 pp. 32-44):e-learning とポートフォリオについては利用者数・利用頻度

について課題は残るものの、まずは開始・運用を行うことが肝要であり、一定の評価ができる。 特に、manaba 導入時の教員対象ガイダンスは学部全体を巻き込む観点からは大変有効と 見受けられる。報告書 p.35、p.41 で指摘の課題や方策による一層の活用が期待される。

- ・留学および支援体制(報告書 pp. 49-60)、学術交流協定大学留学生対象プログラム(報告書 pp. 61-65)様々な国・地域との交流の拡大と支援体制の整備が順調に進捗している。
- ・インターンシップ(報告書 pp. 66-69):就職活動状況の激変の中、学生に意識覚醒を促す刺激剤となったと思われる。指摘の通り、キャリア支援室との連携が有効であると推察する。
- ・広報活動(報告書 pp. 70-83)、グローバルキャンパスへの取り組み(報告書 pp. 89-91):産学官の幅広い領域の講師による講演会・セミナーをはじめ、学内外への発信力は高い。
- ・入試制度改革(報告書 pp. 84-88):1 学部での取組とはいえ、採択後短期間で新たな入試制度を策定・実施、高倍率を得たことは称賛に値し、より多様な学生の確保が期待される。

② 安部 悟氏 (愛知大学現代中国学部 学部長)

愛知県立大学の「グローバル人材育成推進事業」は、外国語学部の「21 世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」という方針の達成を目指すもので、事業の中核をなしているのは、実質的には平成 25 年 4 月から実施された「グローバル人材プログラム(以下プログラム)」である。これは単位認定を伴った留学をする学生を増やす目的で始められた試みで、留学前後を含めた体系的なプログラムとして考えられている点は大いに評価されるべきであろう。海外留学は、これまで学生の自主性に任せるといった形で行われている場合が多く、時として「行かせっぱなし」になっていることへの反省から、学生の留学に対するモチベーションを高め、留学先での学修にも manaba 等を活用して関与し、留学後にも報告書の作成や体験発表を行わせるなど、海外留学を「プログラム」の中に組み込むことによって、事前事後の教育もしっかり行い、留学の効果をさらに高めようとしており、学生がこの「プログラム」を十分に認識するようになれば、単位認定留学生 60%という目標も達成可能だと思われる。ただ、学生にいかにこの「プログラム」を理解させ、履修指導を行い、最終的には達成感や満足感を与えられるのかは、初期段階での徹底的な啓蒙活動や、各段階での本当に細やかなケアが必要であり、留学先を増やし、経済的な支援を行うといった施策を考えると同時に、その内容についても継続的な検討が必要であろう。

その場合、「iCoToBa(多言語学習センター)」の持つ機能をどのように活かしていくかが最大のポイントになると思われる。iCoToBaは「プログラム」開始と同時に開設された学習施設であり、外国語学習、異文化理解、異文化交流の拠点と位置づけられ、「プログラム」の中心的科目群や各種検定講座の開講、留学コーディネータによるカウンセリングなど様々な活動が行われている。そのような施設があることはもちろん高く評価されるべきだが、特筆すべきはそのスタッフの充実ぶりである。外国語教員6名、コーディネータ教員2名の計8名の専任教員が授業や学生の様々な活動のサポートを行っており、意識の高い学生にとっては、そこに行きさえすればいつでも異文化と接することができ、外国語学習のモチベーションを高めてくれる、

無くてはならない場所になりつつあるようだ。当面は報告書にもあるように学生の認知度はまだ低くそれを高める必要があるものの、1年生の利用は確実に増加しており、今後は他学部学生を含めてより多くの学生が利用すると思われ、逆にそのような状況の中でも現在と同様のきめ細かな対応が可能かどうか、さらにはその機能をいかに高めていくかが課題となろう。海外留学については、留学者数を増やすことが目的化しがちだが、留学前後の教育や就職等を含めたトータルサポート体制の確立こそが肝要である。

③ 小川 正樹氏 (中部経済連合会 常務理事 事務局長)

グローバル人材育成推進事業が採択されてから1年半との短い時間にも拘らず、グローバル推進室の設置、多言語学習センター(iCoToBa)の運用開始、グローバル人材プログラムの策定、留学促進のため学術交流協定大学との協定締結と留学支援体制の整備、インターンシッププログラムの充実、入試制度の改革など、さまざまな課題やテーマを積極的に取り組み、短期間にこれらをスタートさせるとともに、すでに成果も出始めており、大いに評価される。

このように、将来に向けて大きな一歩を踏み出すことができたのは、何よりも堀一郎室長をはじめグローバル人材育成推進室の皆様の懸命なご努力と熱意によるものであり、敬意を表したい。

今後、この推進事業を強化・充実し、世界や地域に貢献できる一層優れたグローバル人材を育成・輩出いただけるよう、経済人の視点から意見を述べてみたい。

グローバル人材を育成するにあたって異文化体験は重要なカリキュラムであり、留学の活性化に向けた活動を充実させている。異文化を体験するには海外で生活することが最も効果的な方法であるが、時間的・金銭的制約もあり、留学を補完する方策もあわせて充実させることも重要ではないだろうか。例えば、愛知県等で行われる国際会議や国際コンベンションビューローの活動、観光案内等へのボランティア参加、各国から日本、愛知へ来ている留学生等への生活サポートなどへの参加等の学外活動を履修科目のひとつにできないか、という提案である。留学は在学中に 1~2 回程度の機会しかないだろうが、提案したような内容であれば何回でも可能である。語学や国際感覚を身につけるためには、それらに触れる機会の頻度を上げることが効果的と思われる。

また、グローバル人材育成推進事業の成果を高めるには、なによりも学生の高いモチベーションが重要である。語学や国際感覚を学ぶにあたって、将来の夢など目的意識の有無が、その成果を大きく左右する。例えば日々外国語能力や国際感覚を活用している海外関係機関でのインターンシップは大変良い機会である。これらを通して将来の希望を持つことができれば、学びに積極的に取り組む好循環ができるだろう。

私ども中部経済連合会では、大学が進める「社会が求める人材の育成」に積極的に協力していく予定であり、学生に対する「学びの動機づけ」やインターンシップの機会を一層積極的に提供する「学びの実践」などを行っていきたいと考えている。ぜひとも、この「グローバル人材育成事業」と協調を図り、より高い成果を目指していきたい。

④ 石田 訓夫氏 (外務省外交史料館 元館長、本学卒業生)

- 1. 愛知県立大学外国語学部で始まった「グローバル人材育成推進事業」は、地方とグローバル社会とを繋いで活躍できる人材を育成するという公立大学の今日的課題を克服する試みとして注目される先進的事業である。特に、地域依存傾向の強い学生の意識改革にとどまらず、地域社会に根ざす公立大学をグローバル社会の変化に順応させるための変革をも伴う、波及効果の大きい事業である。
- 2. 平成 24 年度/25 年度報告書は、事業開始から初期段階の取り組みについて扱っている。限られた時間的制約のなかで、事業実施体制を迅速に立ち上げ、「多言語学習センター」の開設、海外大学協定校の拡充、およびインターンシップの制度設計等を並行的に進めつつ、平成 25 年 4 月からは「グローバル人材プログラム」の教務体制を整え事業を軌道に乗せた。特に「多言語学習センター」では学生に語学の学びの場を最大限提供できる良好な環境が整った。また、海外大学協定校へ目的意識をもって留学する学生が増えたことも顕著な変化である。多面的なこれら個々の取り組みを総合プロジェクトとして統括しつつ推進することは容易ではない。「グローバル人材育成推進室」における室長をはじめ室員の理解と熱意があって実現したといえ、関係者の努力を率直に認めたい。総じて、平成 24 年度/25 年度については、当初の事業計画を遅滞なく成功裡に達成できたといえ積極的に評価できる。
- 3. 他方において、今後に向けた問題点も幾つか明らかになりつつある。第1に、「グローバル人材プログラム」利用者の裾野を拡大して、事業効果を学部全体に広めてゆく必要がある。そのためには、経済的事情等により海外留学しない学生も含めて、全員がプログラムからメリットを等しく享受できるような工夫と改善が必要である。例えば、国内で外国語のみにより行う集中合宿訓練研修プログラムは1学年、2学年次にもっと拡充させてもよい。第2点として、海外大学協定校の一層の拡充を図りつつ、留学先での学びの質の向上にもさらなる注意が払われるべきで、教員による留学生の個人指導体制の強化が望まれる。第3点として、大学構内で日常的に外国語を使用する環境が整備されることも必要である。例えば、1週に2日間は外国語学部棟を「グローバル化」して、当日棟内では学生と教員は外国語のみを使用して「グローバルな人間」として過ごすことをルール化するだけでも、意識の向上と裾野の拡大につながると思われる。あわせて、小中高における英語教育改革の方向性も見据えつつ、本事業終了時には海外協定校からの受け入れ留学生も交えて授業を原則英語か外国語で行うグローバル標準のカリキュラム体制が外国語学部で立ち上がるように、将来あるべき学部の姿を見据えた先取的な取組みも必要である。

⑤加藤 滋伸氏 (愛知県立千種高等学校 校長)

本学の「グローバル人材育成推進事業」は「21世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」を目的とし、外国語学部や日本文化学部等を擁する本学の特色と、国際的な企業を多く抱えた本県、本地域の特色を生かし、地元企業やその豊富な人的資源も有効に活用するよう企画されており、本県高等学校関係者としても今後の事業の進展が大変

楽しみである。

本学の事業案内によれば、本事業は「学士課程における発展的留学制度を通したグローバル・キャリア育成プロジェクト」として構想されており、「具体的には、入学時から留学への動機付けを図り、学士課程教育の中に留学前後の教育を位置づけ、地域社会との連携により、グローバル・キャリア形成を支援する。」とあり、その構想目的を達成するために、平成24年度と平成25年度において、具体的に①「manabaを活用した自立学習サポート」、②「e-Learningシステムを活用した外国語自習システム」、③「iCoToBa(多言語学習センター)での語学学習と留学サポート」が順調にスタートしていることは高く評価できる。

上記① ~③のうち、① と② はコンピュータによる自学自習システムであり、学習者の強い学習への意欲と意志が必要である。①に関してはユーザー登録数も多いようであるが、特に② においては、利用者をさらに増やし、このシステムをうまく機能し続けるためには、学習者である学生に学習を喚起する強い動機付けを与え続けることとともに、内容の充実が今後も求められると思われる。

③の iCoToBa(多言語学習センター)は、「県大生にとって一番身近な異文化体験の場」となることを目指し、外国語学習支援と異文化交流推進を目的に開設されたとのことであるが、さまざまな思いを込めた命名も洒落ており、上記①と② のシステムを有機的に結びつける、本事業推進の生命線と言える役割を果たすセンターとして、今後の発展を期待したい。

留学に関しては、留学前、留学中、留学後の指導が体系的に考えられており、他大学においても参考となると思われる。また、海外協定大学を増やす努力もされており、従来からの単なる語学留学ばかりでなく単位取得を目指した留学制度の充実にも努めてみえることは高く評価できる。今後の実践の中で、さらに内容が充実され、留学後の企業等でのインターンシップ等が有効にグローバル・キャリア形成に生かされていくとよい。

また、iCoToBa の活動の中で、高等学校生徒の訪問受け入れ、高等学校への出張ガイダンスや模擬授業、県大生と高校生によるImmersion Program 合宿の実施など、高等学校への働きかけも積極的に行っていることを評価したい。

平成 24~25 年度 グローバル人材育成推進事業 実績報告

(平成 26 年 2 月 20 日)

1. 本報告書の発行によせて

愛知県立大学グローバル人材育成推進室長(外国語学部長) 堀 一郎

外国語学部を中心とする本学の取り組みが文部科学省グローバル人材育成推進事業として採択が決定されたのは平成24年9月であった。同年4月に文部科学省による事業の概要の通知を受け、5月半ば学部レベルでの応募決定を決め、6月末に構想調書を提出した。応募決定から構想調書提出まで短期間に議論を詰めたため、現時点で見れば構想内容に重要な取り組みの追加や組み換えが必要になる個所も散見されるが、今後の実践の過程で克服してゆくほかはない。

本取り組みは「学士課程における発展的留学制度を通したグローバルキャリア育成プロジェクト」として構想され、愛知県の公立大学として、「国際社会」あるいは「地域社会」に貢献できるグローバル人材を育成することを目的とした。それは、外国語の高度で実践的な運用能力と外国諸地域の専門的知識を獲得し、「グローバルな多文化共生」の実現に向けて、国際社会に活躍の場を見出し、あるいは地域の国際化に貢献しうる人材の育成を目指すという外国語学部の教育目的からのみ導きだされたものではない。それは平成 23 年度からの、愛知県立大学の第二次中期計画(平成 25 年度~平成 30 年度)の策定の過程において、外国語学部が抱える実際的問題を解決する方向の中から生み出されたものである。

本学外国語学部では、毎年多数の学生が海外に出ているが(平成23年度に3か月以上の留学に出た者は231名。うち3年生が126名=外国語学部3年生の約37%)、海外協定大学の少なさや大学として留学前の指導体制や留学後のフォローが不十分であったため、留学の多くが単位認定を伴わない語学留学であり、これまで「行かせっぱなし」になってきた。この「外向き」志向の多数の学生に対し、単位認定を伴う留学を外国語学部学生の60%にまで引き上げ、留学前→留学中→留学後の各段階で体系的な学修に参加させ、グローバル人材に育てることを構想したのである。文部科学省のグローバル人材育成推進事業は、潜在的にグローバル志向の高い本学部学生の能力を顕在化し、アップさせる絶好の機会となったのである。

今回の報告書は採択後平成26年2月初めまでの取り組みおよび活動の記録である。本学部にとって大規模な文部科学省支援事業は初めでの取り組みであり、しかも採択が決定されてから本格始動まで時間的に猶予はなく、その構想の具体化はハイピッチで進めなければならなかった。すべてゼロからの出発であった。まず始めなければならない作業がこの事業の管理・実施組織である「グローバル人材育成推進室」の立ち上げ、この事業の中心活動拠点である「多言語学習センター」の設置と運用、海外大学協定校の拡充と実施、インターンシップ

の制度設計、これらに伴う学内諸部門との管理・実施調整と予想をはるかに上回る仕事量であった。また平成25年度4月の本格実施に伴う学内外への周知・広報活動には大きな人力が必要とされ、多くの予期せぬ混乱、情報の錯綜が発生し、事業への不安もかすめたこともあった。しかし、経験することによって学び、事業の運営も整備され、平成25年初夏には軌道に乗り始めた。

本事業は、現時点で採択後、準備、本格実施と 1 年半しか経過しておらず、成果の検証、評価を行うには時期尚早であろう。取り組みの実施がこれからのものもある。したがって、本報告書は、あくまでも事業の準備と本格開始の過程での反省点を洗い出し、将来の改善につなぐための材料として位置づけたい。しかしながら、外部からの意見は貴重である。皆様の多様な観点からの忌憚のないコメントを期待する。

2. グローバル人材育成推進室

1. 概要

グローバル人材育成推進室は、本学外国語学部におけるグローバル人材育成推進事業の 立案・実行の中核となる組織であり、以下の事項に関する業務を担っている。

- (1) 語学教育プログラムの企画・調整・実施に関する事項
- (2) iCoToBa(多言語学習センター)の運営に関する事項
- (3) 学生に対する留学前から留学後までの学修支援に関する事項
- (4) そのほか、本学におけるグローバル人材育成の推進に関する事項

グローバル人材育成推進室は、以下の室員で組織されている。

[平成 24 年度]

室長 堀 一郎 (外国語学部長、英米学科)

副室長 小池 康弘(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

室員 広瀬 恵子(多言語学習センター準備委員会委員長、英米学科)

室員 人見 明宏(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)

室員 森田 久司(英米学科)

室員 宮谷 敦美(国際関係学科)

室員 桑村 昭(国際交流室長)

室員 北條 泰親(事務部門長)

室員 木下 圭一郎(学務課長)

[平成 25 年度]

室長 堀 一郎 (外国語学部長、英米学科)

副室長 小池 康弘(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)

室員 吉川 雅博(国際交流室長・キャリア支援室長、社会福祉学科)

室員 広瀬 恵子(iCoToBa 長、英米学科)

室員 宮谷 敦美(iCoToBa 委員長、国際関係学科)

室員 中田 晋自(ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)

室員 森田 久司(英米学科)

室員 エドガー・ライト・ポープ(国際関係学科)

室員 大山 守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)

室員 寺澤 君江(iCoToBa 語学学習アドバイザー)

室員 北條 泰親(事務部門長)

室員 木下 圭一郎(学務課長)

事務職員 宮部真奈美、水野淑子、岡崎まどか

3. グローバル人材育成推進事業

1. 概要

平成24年度に文部科学省に採択された愛知県立大学「グローバル人材育成推進事業」は、本学の第二次中期計画(平成25年度~平成30年度)の外国語学部の人材育成方針「21世紀国際社会を創造し、地域社会に貢献するグローバル人材の育成」の達成をめざしたものである。

本事業は、外国語学部学生の 60%以上が単位認定留学するという目標を設定した上で、「留学前→留学中→留学後」のプロセスを、グローバル人材を育てる一貫した発展的教育課程としてとらえている。これらの各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムとして、「グローバル人材プログラム」を新たに整備し、平成 25 年 4 月から実施している。

iCoToBa(多言語学習センター)は、グローバル人材育成の中核となる外国語学習と異文 化理解学習、および本学の異文化交流の場として、平成 25 年 4 月に開設された。iCoToBa では「グローバル人材プログラム」の中心となる科目群を開講し、TOEIC 等各種検定講座の 開講や、留学コーディネータによるカウンセリングなど、幅広い活動を行っている。iCoToBa の 詳しい内容は、「4. iCoToBa(多言語学習センター)」(pp.13-31)に述べる。

本学のグローバル人材育成推進事業は、以下の4点を主たる目的に取り組んでいる。

- A. 留学前→留学中→留学後の各段階で必要な能力を育てる体系的なプログラムを実施する。
- B.外国語学部学生の60%以上が単位認定を伴った留学をする。
- C.各専攻言語および第 2 外国語の二言語において、一定以上の語学力を身につける。 (各言語の目標値は、p.8 表 2 を参照)
- D. グローバル人材として必要な 8 項目に関する能力養成と、5 つの態度・資質の醸成を目指す。

[8 つの能力・知識]

①高度な語学力、②国際教養、③プレゼンテーション・スキル、④情報リテラシー、⑤広義のコミュニケーションスキル、⑥異文化適応能力、⑦課題発見・解決力、⑧マネジメント能力

「5 つの熊度・資質]

①グローバルかつグローカルな視点、②主体性、③積極性とチャレンジ精神、④協調性、⑤責任感・倫理観

以下、3 章では、本学のグローバル人材育成推進事業のうち、その中核をなす「グローバル 人材プログラム」を中心に説明する。

【図1 グローバル人材育成推進事業で養成する8つの能力】

● 高度な語学力

- ・複数の外国語の運用能力を持ち、 少なくともひとつの言語では、チームやパートナーと協力して仕事を完成できる
- ・相手の考えを正確に理解し、自分の考えを相手に的確に伝えることができる。

② 国際教養

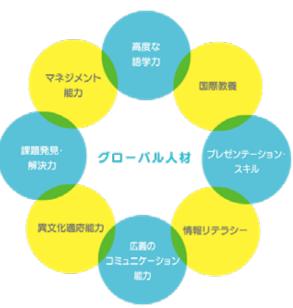
- ・日本の社会や文化に関して、相手 に正確に伝えることができる
- ・諸外国の歴史、文化、宗教、習慣、 ルールなどについての知識がある
- 国際プロトコル(礼儀作法、やりかたの手順)やマナーの心得がある

③ ブレゼンテーション・スキル

・日本語と外国語で、関き手や目的 に応じて、効果的なプレゼンテー ションができる

❹ 情報リテラシー

- ・さまざまな情報源から、適切に情報 収集ができる
- 基本的なコンピュータソフトを使い こなし、情報セキュリティについての 知識がある



⑤ 広義のコミュニケーション能力

- ・さまざまな文化背景を持った人と題思疎通を図りつつ、信頼関係を築くことができる
- ・他者に働きかけ(発信力)、話し合いを通じて合意形成ができ(対認力・交渉力)、必要な関係を作る (ネットワーク構築力)ことができる

母異文化適応能力

・文化の多様性を受け入れ、いかなる環境でも適応できるタフなマインドを持っている

② 課題発見·解決力

- 常に問題意識を持ち、新しいテーマを見つけ出すことができる
- ・それを問題解決やイノベーションに 結びつけることができる

のマネジメント能力

・多様な人々をまとめていくリーダーシップや、グループの意見を受け入れまとめていく調整力、相互理解や合意形成の手助けができるファシリテーション能力がある

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成24年度から25年度にかけての目標は、以下のとおりである。

上の図1に示したグローバル人材に必要となる能力養成を目指した「グローバル人材プログラム」を策定し、平成25年度より実施する。また、本プログラムで指定した科目の単位を取得し、専攻外国語および第2 外国語科目の基準を満たした者を「グローバル人材プログラム」修了者として、本事業の目標を達成した学生として認める。

加えて、きめ細やかなガイダンスの実施により、外国語学部の学生に「グローバル人材プログラム」を周知し、教務体制を確立する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①グローバル人材プログラムの策定と実施

上記の目標を達成すべく、グローバル人材育成推進室は、平成 24 年度に「グローバル人材プログラム」を策定し、平成 25 年 4 月から外国語学部で実施している。

本プログラムは、学部の専門の学修に加えて、海外留学を組み込み、留学前、留学中、留学後の各段階で、グローバル社会に必要とされる能力を養成する体系的な授業科目を提供し、語学力と共に主体的に行動する力を身につけることを目標としている(P.6 図 2 参照)。

【図2 グローバル人材プログラムにおける学びの3段階】



また、本プログラムは、専攻外国語に加えて、他の一つ以上の外国語能力を身につける「複数言語運用能力養成」を目指している。複数の外国語を学ぶことにより、外国語で話せることのみならず、多様性を受け入れる柔軟な心や複眼的思考を育むことが可能となる。

「グローバル人材プログラム」で定めた科目は表1の通りである。

【表1 平成25年度※グローバル人材プログラム科目一覧】

科目群名称	科目		対象	単	必修	
47日4747	作 日	学年	位	単位		
	東海地方の歴史・文化	全学共通	1~4	2	2	
	日本の歴史・文化	全学共通	1~4	2	2	
A 団際料業	アジアの歴史・文化	全学共通	1~4	2		
A.国際教養	ヨーロッパの歴史・文化	全学共通	1~4	2		
	南北アメリカの歴史・文化	全学共通	1~4	2	$\frac{1}{2}$	
	国際関係	全学共通	1~4	2		
В.	基礎演習 I	各学科•専攻	1	2	2	
プレゼンテーシ	日本知众	: (C, T, D,	知学品		以校	
ョン・スキル	日本紹介	iCoToBa	留学前	-	必修	
C	情報処理 A	全学共通	1	2		
C.	情報処理 B	全学共通	1~4	2	2	
情報リテラシー	情報処理 C	全学共通	1~4	2		
D	多文化社会におけるコミュニケーション	全学共通	1~4	2		
D. 広義のコミュニ	コミュニティにおけるコミュニケーション	全学共通	1~4	2	0	
	キャリア実践	全学共通	1~4	2	2	
ケーション力	特別講義B「中部の企業トップに聞く」	全学共通	1~4	2		

	特別講義A「英語連続セミナー」	全学共通	1	2	
	研究各論(多文化共生論)	国際関係	2	4	
E.異文化適応	研究各論		2	2	2
能力	(異文化コミュニケーション論)	国際関係	2	2	
	研究各論(地域社会論)	国際関係	3.4	2	
	比較文化セミナー	iCoToBa	留学前	-	必修
F.	インターンシップ	全学共通	2.3	2	2
課題発見•解	リサーチ・発信プロジェクト	iCoToBa	留学前	-	必修
決力	卒業論文	各学科•専攻	4	8	8
G.	キャリアデザイン	全学共通	1~3	2	9
マネジメント	研究各論(NPO 論)	国際関係	2.3	2	2
能力	学生共同プロジェクト	iCoToBa	留学後	-	必修
H.留学先履修	リサーチ・発信プロジェクト	iCoToBa	留学中	-	必修
科目	海外協定大学修得科目			2	2
т	情報検索講座(初級編)	図書館	1	-	必修
I. 講習会等	情報検索講座(グローバル対象)	図書館	2.3	-	必修
一件白云守	留学体験発表会		留学後	-	必修
					26

※平成26年度新カリキュラムへの移行により指定科目は変更される予定

「グローバル人材プログラム」の修了要件は、以下の4点である。

- 1. 卒業時に、専攻外国語と第 2 外国語(全学共通外国語科目で履修した言語)に関して以下(表 2、p.8)の到達目標レベルを満たしていること。
- 2. 「グローバル人材プログラム」指定科目から、26 単位を履修すること。
- 3. 「グローバル人材プログラム」が指定するiCoToBa 開講科目を受講し、クラス修了試験に合格すること。
- 4. 「グローバル人材プログラム」指定講習会に出席し、指定の課題を提出すること。

【表2 グローバル人材プログラムで定めた外国語達成目標】

	専攻外国語	第2外国語(全学共通外国語科目)
英語	TOEIC 800 点以上	TOEIC 730 点以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験 準1級	実用フランス語技能検定試験3級
スペイン語	DELE B2	DELE A1
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験2級	ドイツ語技能検定試験 4級
中国語	中国語検定試験 2 級	中国語検定試験 3 級
ポルトガル語		外国語としてのポルトガル語検定試験 CIPLE、または、中級以上に相当する科目で A評価を4単位以上
ロシア語		ロシア語能力検定試験4級、または、中級以上 に相当する科目でA評価を4単位以上
日本語		日本語能力検定試験 N1**

※留学生のみ

②「グローバル人材プログラム」ガイダンスの実施と教務体制の確立

外国語学部の学生に「グローバル人材プログラム」を周知するために、きめ細やかなガイダンスを実施した。平成 25 年度に実施したガイダンスは以下のとおりである。

- a) 平成25年度新入生対象 グローバル人材プログラムガイダンス(4月5日実施)
- b) 在校生対象 グローバル人材プログラムガイダンス(4月5日、17日実施)
- c) 復学者対象グローバル人材プログラムガイダンス(9月25日、26日、10月2日実施)
- d) 平成 25 年度後期在学生対象ガイダンス(10 月 9 日、17 日、22 日、30 日実施) これら $a\sim d$ に加え、各学科・専攻で新入生対象に iCoToBa ガイダンスを実施した。これについては第 4 章(p.17)で触れる。

a) 平成25年度新入生対象 グローバル人材プログラムガイダンス

平成25年4月5日に外国語学部新入生を対象に実施した。グローバル人材プログラムの概要および、iCoToBa(多言語学習センター)の紹介、留学制度等について説明した。

b) 在校生対象 グローバル人材プログラムガイダンス

平成 25 年 4 月 5 日、および 4 月 17 日に、在学生対象ガイダンスを実施した。内容は、グローバル人材プログラムの概要と平成 25 年度より導入された e-Learning プログラム、iCoToBa (多言語学習センター)の紹介、留学制度と奨学金情報である。2 回とも 100 名以上の参加があり、在学生のプログラムへの有効な動機づけになった。





「平成25年度新入生対象ガイダンス]





[在校生対象ガイダンス]

c) 復学者対象グローバル人材プログラムガイダンス

9月25日、9月26日、10月2日の計3回、留学を終え復学する学生を対象に、グローバル人材プログラムガイダンスを実施した。全部で100名を超える学生の参加があり、本プログラムに対する関心の高さがうかがわれた。

d) 平成 25 年度後期在学生対象ガイダンス

10月9日、10月17日、10月22日、10月30日に、プログラムの履修方法など教務内容を中心としたガイダンスを実施し、数十名を超える学生が参加した。

平成 25 年度後期ガイダンスより、本プログラムの履修方法など教務に関する質問は、教務担当教員3名(英米学科:森田、ヨーロッパ学科:中田、中国学科および国際関係学科:宮谷)が対応した。また、本プログラムに関する学生からの質問をまとめた「グローバル人材プログラム FAQ」を作成し、資料配布および HP やインターネットポートフォリオ(5 章参照)により周知した。

③「グローバル人材プログラム」指定科目履修状況

本プログラムは、全学共通科目(教養科目)、学部専門科目、iCoToBa(多言語学習センター)開講科目、その他講習会等からなる。このうち、iCoToBa で開講したグローバル人材プログラム科目の履修者は以下のとおりである。表 3~表 5 の「※1」はグローバル人材プログラムの「日本紹介」、「※2」は「比較文化セミナー」、「※3」は、「リサーチ・発信プロジェクト(留学前)」の指定科目であることを示している。

【表 3 平成 25 年度前期 iCoToBa 開講グローバル人材プログラム指定科目】

CEFR によるレベル(言語)	各言語科目名称	受講
科目名称	台言語符日名称 	者数
B2/中上級(英語)※1	T A 1 1	1.4
英語で日本 PR プロジェクト・日本の魅力を発信しよう!	J-Ambassador	14
C1/上級(英語)※1	T A 1 1	1.77
英語で日本 PR プロジェクト・日本の魅力を発信しよう!	J-Ambassador	17
B1/中級(フランス語)※1	T T . 10 .	
ニッポンなう	Le Japon aujourd'hui	9
B/中上級(スペイン語)※1	0 (1 1 1)()	1.4
スペイン語プレゼンテーション上級編(a)	Oratoria (nivel avanzado)(a)	14
A Q / 知 内 (1 × 入) (苯) 义 1	Meine Heimat und ich: Anlässe	
A2/初中級(ドイツ語)※1	zu interkultureller	
自分(の街)をもう少し知ってもらおう	Kommunikation	
A2/初中級(中国語)※1	了知口卡 A/77日卡	_
中国語で日本を知る、紹介する	了解日本、介绍日本	1

【表 4 平成 25 年度後期 iCoToBa 開講グローバル人材プログラム指定科目】

CEFR によるレベル(言語)	夕 二 云孔口丸 	受講
科目名称	各言語科目名称	者数
A2-B1/初中級~中級(英語)※1	I Ambassadan 1	0
英語で日本PRプロジェクト・日本の魅力を発信しよう!1	J-Ambassador 1	9
B2-C1/中上級~上級(英語)※1	J-Ambassador 2	C
英語で日本PRプロジェクト・日本の魅力を発信しよう!2	J-Ambassador 2	6
A2/初中級(英語)※2	Comparative Study of Cultures:	1.0
英語圏を知りつくそう!1	The English-Speaking World 1	16

B1/中級(英語)※2	Comparative Study of	
英語圏を知りつくそう!2	Cultures: The English-Speaking	19
Zue zny z Cy. 2	World 2	
A2-B1/ 初中級~中級(英語)※3	Research and Presentation	4
プロジェクトワークを行って発表しよう!1	Project 1	4
B2-C1/中上級~上級(英語)※3	Research and Presentation	11
プロジェクトワークを行って発表しよう!2	Project 2	11
A2/初中級以上(フランス語)※1	I a Jaman anianndihari	10
ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	10
A2/初中級以上(フランス語)※2	La Engagon hamia anioundihari	10
フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	10
A2-B1/ 初中級~中級(スペイン語)※1	D 4 I 7 ~ 1	0
スペイン語で日本紹介	Presentar Japón en español	8
B1-B2/中級~中上級(スペイン語)※2	Estudios culturalres	٠
比較文化セミナー	Estudios culturaires	5
A2/初中級(スペイン語)※3	I	9
リサーチ・発信プロジェクト	Investigación y presentación	3
A2/初中級(ドイツ語)※1	Heimat und Ferne	3
海の向こうとこちら(日本紹介)	(Japanbotschafter)	3
B1/中級(ドイツ語)※2	Alles Sushi? Alles Bratwurst?	
寿司や焼きソーセージの話ばかり?それとも?-異文化	Oder was? - Fokus	7
へのまなざし	Interkulturelles	
B2/中上級(ドイツ語)※2	"Mahlzeit" und "Schönen	
「いただきます」、「お疲れ様」・日独文化事情と専門用	Feierabend"-Landeskundliches	6
語	und Fachsprachliches	
A2/初中級(ドイツ語)※3	Forschungs- und	
リサーチ発信プロジェクト	Rräsentationsprojekt	1
A2/初中級(中国語)※1		_
中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	7
A2/初中級(中国語)※2	+ p + /////	
中国と日本の比較文化	中日文化比较	14
B1/中級(中国語)※3		_
リサーチ・発信プロジェクト	实践调查与报告	6
	İ	L

【表 5 平成 25 年度 iCoToBa サマープログラム内グローバル人材プログラム指定科目】

CEFR によるレベル(言語)	各言語科目名称	受講
科目名称	台言語符日名称 	者数
A2-C1/初中級-上級(英語)※1	J-Ambassador 1	11
英語で日本 PR プロジェクト・日本の魅力を発信しよう!1		

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

平成25年度に始まった「グローバル人材プログラム」は、新年度の集中的なガイダンスとさまざまな手段による情報提供の徹底により、周知期間が短かったにも関わらずスムーズな運営ができている。

また、平成 25 年度卒業する学生には、「グローバル人材プログラム」の修了者はいないが、キャリア支援の一環として、就職活動を予定している学生のために「グローバル人材プログラム受講証明書」の発行方法について審議・決定した。平成 26 年 5 月から該当者に発行予定である。

平成 25 年度に iCoToBa で開講したグローバル人材プログラム科目の履修者は、のべ 235 名であった。加えて、情報検索講座(初級編)合格者が 84 名、情報検索講座(グローバル対象)合格者が 23 名(どちらも前期認定分のみ)であったことをあわせて考えると、初年度としては順調であると評価できよう。

②改善すべきこと

本年度は、プログラムに設定した科目や講座の準備とガイダンスの実施に注力したため、学生へのきめ細かい指導ができたとは言いがたい。また、各学科・専攻の教務委員等との連携が十分にとれていなかったため、正課科目の履修相談の際に、グローバル人材プログラム科目の履修をあわせて勧めるなどの履修指導が徹底できなかった。これらについては、次年度以降改善したい。

5. 平成 26 年度に向けての方策

平成 26 年度に実施するガイダンスでは、学生の視点に立ち、本事業に関連する部署 (iCoToBa 委員会、国際交流室)とも連携をとり、一元化した情報提供を目指す。また、来年度 から、グローバル人材育成推進室委員を学科・専攻から 1 名ずつ選出し、学科・専攻とのスムーズな情報共有と、学生への教務指導体制の改善に取り組む。

4. iCoToBa(多言語学習センター)

1. 概要

iCoToBa(多言語学習センター、以下iCoToBa)は、平成25年4月に開設したグローバル人材育成の中核となる外国語学習と異文化理解学習、および本学の異文化交流のための学習施設である。

iCoToBa の立ち上げに際して、平成 24 年 10 月に「多言語自主学習センター(仮称)準備委員会」が発足した。委員会構成員は、広瀬恵子(委員長、英米学科)、池田周(英米学科)、長沼圭一(ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)、糸魚川美樹(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)、四ツ谷亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)、中西千香(中国学科)、福岡千珠(国際関係学科)、宮谷敦美(国際関係学科)の計 8 名である。準備委員会では、センター付外国人教員の採用、施設デザイン、開講科目の方針決定、e-Learning 導入の検討、外国語教材や雑誌等の選定などを行い、半年足らずの間に iCoToBa の基礎を固めた。

「iCoToBa」という名称は、本学学生にとって親しみやすく、かつ外国語学習が楽しくなる「場」になることを願い、つけられたものである。

i(あい) ... <u>愛</u>知県立大学、私の <u>I</u>、<u>i</u>ndependent Co(こ) ... <u>co</u>mmunication、<u>co</u>operation、<u>co</u>mmunity To(と) ... <u>tog</u>ether、仲間<u>と</u>共に 目標<u>に向かって</u> Ba(ば) ... 人々が出会い、つどい、学ぶ<u>場</u>

平成25年3月に、外国語教員6名とアドバイザー教員2名、計8名の専任教員が採用された。年度末の1か月間で、iCoToBa教員は準備委員会委員と共に、平成25年度前期開講科目の準備と、ガイダンスの準備に取り組み、平成25年4月に正式にオープンした。

iCoToBa 専任教員は、以下の8名である。

専任講師英語担当Fern EDEBOHLS専任講師英語担当Brett HACK

専任講師 フランス語担当 Morgan DALIN

准教授 スペイン語担当 Susana DIEGO (2013 年 8 月 31 日まで)

准教授 ドイツ語担当 Morten HUNKE

准教授 中国語担当 曲明

准教授 留学アドバイザー 大山守雄 専任講師 語学学習アドバイザー 寺澤君江

平成25年3月をもって、多言語自主学習センター(仮称)準備委員会は発展的解消し、その役割はiCoToBa委員会が引き継いだ(平成25年度より学部委員会化された)。委員会構

成員は、宮谷敦美(委員長、国際関係学科)、石原覚(英米学科)、長沼圭一(ヨーロッパ学科フランス語圏専攻)、糸魚川美樹(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)、四ツ谷亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)、中西千香(中国学科)、福岡千珠(国際関係学科)、大山守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)、寺澤君江(iCoToBa 語学学習アドバイザー)の、計9名である。

iCoToBa は、以下の役割を担っている。

a) 語学授業の提供

英語 45 時間 (90 分×30 コマ)、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語は、各 15 時間 (90 分×10 コマ)の語学授業を開講している。 開講科目は、外国語運用能力を高めることを目的としたものと、グローバル人材プログラム対象科目がある。 以上、 週合計 70 コマの語学授業を提供する。

b) 語学学習アドバイジングと自立学習支援

iCoToBa では、専任の語学学習アドバイザーが、TOEFL や IELTS などの英語圏の留学 に必要な検定試験の準備について、個別相談に応じている。また、e-Learning の普及を目的としたイベントを計画したり、インターネットポートフォリオ(manaba)を活用した遠隔指導も行っている。e-Learning と manaba については、第5章で触れる。

c) 留学アドバイザーによる相談業務および留学サポート

専任の留学アドバイザーが、国際交流室との協働のもと、個別に留学準備のための相談に 応じている。加えて、留学体験をした学生の体験談を聞くイベントなど、学生への留学の動機 づけをねらったイベントを計画・実施している。

d) 異文化理解、異文化交流を促進させるイベントの開催

外国の文化を紹介、体験するイベントや、本学留学生や近隣に住む外国人との交流イベントなどを開催している。これらは、本学の学生にとって、異文化を理解し実際に外国語でコミュニケーションする機会にもなっている。また、これらの多くのイベントは、教員が企画運営するのではなく、企画段階から学生も参加することで、学生の自主性や行動力、マネジメント能力育成も目指している。

e) 学生活動のサポート

d)の活動を契機に、学生自身が「ともに創りだす楽しさ」を発見することも多い。これを成長の機会ととらえ、iCoToBaでは、学生自身が企画を作成し実施することも推奨、サポートしている。現在では、学生の自主グループ iCoToBa supporters club(通称 ISC)が組織化され、

iCoToBa の運営に積極的に参画している。

f) 情報発信

ホームページやインターネットポートフォリオ (manaba) を活用し、外国語学習や留学に関する情報提供を行っている。また、学生の自主的な活動のサポートとして manaba コミュニティを立ち上げ、運営している。加えて、iCoToBa で取り組んでいる語学授業や教育手法について、実践発表や教材開発も行っている。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成24年度から25年度にかけての目標は、以下のとおりである。

平成24年度は、平成25年4月に開設するiCoToBa施設、および授業内容の準備を整える。平成25年度は、学生に対するiCoToBaガイダンスなどによる徹底した周知活動と、各学期に計画した授業のスムーズな運営を目指す。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①iCoToBa 施設整備

iCoToBa は開放的な雰囲気で学生がアクセスしやすいように、外国語学部棟 2 階に開設した。施設は、a) 外国語の会話を楽しみ、異文化交流イベントを開催できる iLounge、b) e-Learningを用いた語学学習や情報収集に活用できる Self-Study Space、c)授業やグループ学習とイベントに使用可能な Activity Space からなる。

また、日々の学生の動線傾向を基に、iCoToBa への来室を促すよう、E 棟内にiCoToBa のアイコンを整備した。







[E棟2階のiCoToBaアイコン]

②iCoToBa における教具・教材の充実

a) i Lounge

- ・視聴覚コーナー: 50 インチの大型画面で、海外のテレビ番組の視聴や外国語による映画の DVD 鑑賞が可能である。
- ・留学情報および外国文化紹介に関する書籍、語学検定対策書籍、外国語による各種雑誌 を配架した。

- ・アドバイジングコーナーを設置し、iCoToBa 教員がいつでも対応できるスペースを確保した。
- ・軽量可動式のテーブルと椅子を配置し、活動目的に応じて、スペースを有効利用できるよう にした。

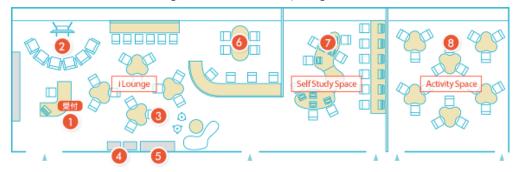
b) Self-Study Space

- ・デスクトップ型パソコン 6 台、ノート型パソコン 8 台を配置し、学生がいつでもインターネットにアクセスできる環境を確保した。
- ・これらのパソコンすべてに、外国語学習教材「ロゼッタストーン」をインストールし、学生のペースで 24 言語の学習に取り組めるようにした。
- ・真ん中にグループ学習に適したテーブルを配置し、パソコンを用いたピア・ラーニングを可能 にした。

c) Activity Space

- ・軽量可動式のテーブルと椅子を配置し、教室活動に応じて、スペースを有効利用できるよう にした。
- •60 インチ大型タッチパネルディスプレイを配備し、インターネットを用い、効果的な授業の実施を可能にした。

このほか、iCoToBa 受付では、学生への貸出用物品として、ノートパソコン 5 台と、iPad を 10 台、ヘッドセット 30 個を配備している。



【図4:iCoToBa 配置図】

【表 6 iCoToBa 配架教材一覧】※は定期購読

言 語	書籍	雑誌	DVD	言 語	書籍	雑誌	DVD
英語	66	16	6	イタリア語		9	
フランス語	23	4	7	韓国語	1	12	
スペイン語	42	—	14	ロシア語	5	10	
ドイツ語	19	7*	17	ポルトガル語	3	_	
中国語	44	3**		日本語	89		

③iCoToBa ガイダンスの実施

平成 25 年度は、iCoToBa 主催の新入生対象ガイダンスを 2 種類実施した。a)iCoToBa の雰囲気にふれることを目的とした iCoToBa Welcome ガイダンス、b)外国語学習の動機づけと主体的な学びを促すことを主眼においた iCoToBa 新入生ガイダンスである。

a) iCoToBaWelcome ガイダンス: 平成25年4月6日(土) 実施

新入生は入学時に CASEC を受験することになっている。 CASEC 受験後に、iCoToBa に来室し、iCoToBa の外国人教員による各言語の iCoToBa 科目について説明を聞き、簡単な外国語での会話体験をした。





[iCoToBa Welcome ガイダンス]

b)iCoToBa 新入牛ガイダンス

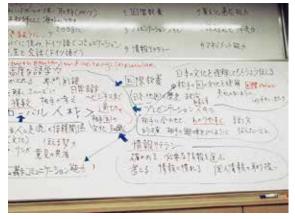
このガイダンスは、外国語学習の目標や方法について考え、話し合うことで、新入生が学びの主体であることを意識させるために、iCoToBa 委員とiCoToBa 教員の協力により行った。ガイダンスは、90 分 $\times 2$ 回で、1回目は2 学科・専攻合同ガイダンス、2 回目は学科・専攻ごとに開催した。

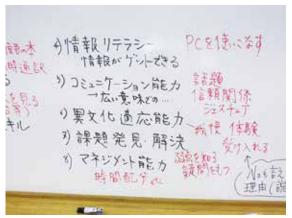
第1回のテーマは「外国語学習についてともに考える」であった。2つの学科・専攻があつまり、学習言語や話されている国・地域について知っていることを話し合った上で、専攻言語選択のきっかけや目的について学生間でシェアした。そのあとで、「グローバル人材に必要な8つの能力」について、具体的には何ができることなのか、ディスカッションした。最後に、学生自身の外国語学習の方法についてふりかえり、本学で外国語学習に取り組む上でiCoToBa、e-Learning、インターネットポートフォリオが活用できることを説明し、ガイダンスを終えた。

第 2 回の目的は、主にインターネットポートフォリオの使い方に慣れることと、実際に e-Learning に触れる機会を持つことであった。第1回目のガイダンスで考えたことや、SILL (外国語学習ストラテジー調査)に答えてみるなど、具体的なタスクと共にこれらのシステムの使い方を学べるように工夫した。

【表 7 iCoToBa 新入生ガイダンス日程】

学科·専攻	1回目	2回目
英米学科	4月11日(木)1限	4月17日(水)5限
フランス語圏専攻	4月10日(水)3限	4月16日(火)5限
ドイツ語圏専攻	4月12日(金)2限	4月19日(金)2限
スペイン語圏専攻	4月12日(金)2限	4月18日(木)4限
中国学科	4月10日(水)3限	4月16日(火)2限
国際関係学科	4月11日(木)1限	4月18日(木)2限





[iCoToBa 新入生ガイダンス(第1回)での板書]

③iCoToBa 開講科目

iCoToBa では、外国語学部の専攻外国語である英語、フランス語、スペイン語、ドイツ語、中国語の語学授業を開講している。レベル別(ヨーロッパ共通参照枠:CEFR A1~C1)・目的別(4 技能、留学準備、グローバル人材プログラム指定科目)に設定し、正課の授業で身につけた言語知識をもとに、実際的な運用能力を身につけることと、学習言語が話されている地域の文化や社会について、学習言語を使って調べ、発信することを目指した教室活動である。

以下は、平成25年度にiCoToBaで開講した科目および受講者の一覧である。

【表 8 平成 25 年度前期 iCoToBa 開講科目】

CEFR によるレベル(言語) 科目名称	各言語科目名称	受講者数
A2/初中級(英語) サバイバル英語「こんなとき、なんて言う?」	Survival English	20

B2/中上級(英語)		
サバイバル英語「こんなとき、なんて言う?」	Survival English	32
B1-B2/中級-中上級(英語)	Today's Top News	
今日のニュースについて話そう!	Today's Top News	16
C1/上級(英語) 今日のニュースについて話そう!	Today's Top News	6
B2/中上級(英語)	J-Ambassador	1.4
英語で日本 PR プロジェクト・日本の魅力を発信しよう!	J-Ambassador	14
C1/上級(英語)	J-Ambassador	17
英語で日本 PR プロジェクト・日本の魅力を発信しよう!	o Allibassauoi	11
A2-B1/初級-中級(英語)	Note Taking & Academic	23
英語で授業を聴いてノートを取る	Listening	20
B1-B2/中級-中上級(英語)	Note Taking & Academic	8
英語で授業を聴いてノートを取る	Listening	0
A2-B1/初級-中級(英語) 発音練習	Pronunciation Profiles	24
A2-B1/初級-中級(英語) 発音練習	Pronunciation Profiles	22
B1-B2/中級-中上級(英語) 発音練習	Pronunciation Profiles	19
B1-B2/中級-中上級(英語) 発音練習	Pronunciation Profiles	16
B2-C1/ 中上級-上級(英語) 英語でディベート	Debate	5
B1-B2/中級-中上級(英語)	English Images	7
英語でスジナシ!役だけ決めて即興劇	English Improv.	7
A2/初中級(英語)	Email Latton & Dlag Writing	4
英語で Email や手紙やブログを書いてみよう!	Email, Letter & Blog Writing	4
B2/中上級(英語)	Email, Letter & Blog Writing	10
英語で Email や手紙やブログを書いてみよう!	Eman, Letter & Diog Witting	10
B1-B2/中級-中上級(英語)	CV Writing	
英語で履歴書を書いてみよう!		
B1-C1/中級-上級(英語)	Report Writing	2
英語で研究計画書、レポートを書いてみよう!	teport writing	2
A1-B1/初級・中級(英語) 英語圏を知りつくそう!	The English-Speaking World	18
B2-C1/中上級・上級(英語) 英語圏を知りつくそう!	The English-Speaking World	12
A2-B1/初級-中級(英語)	Onorminute Chasek	8
1分間スピーチを練習しよう!	One-minute Speech	
B2-C1/中上級-上級(英語)	One-minute Speech	
1分間スピーチを練習しよう!		

A2-B1/初級-中級(英語)		
プロジェクトワークを行って発表しよう!	Project Work	1
B2-C1/中上級-上級(英語)	Project Work	20
プロジェクトワークを行って発表しよう!	Troject Work	20
B2/中上級(英語) ディスカッションに強くなる!	Group Discussion	10
C1/上級(英語) ディスカッションに強くなる!	Group Discussion	5
レベル設定なし(英語) 検定試験対策 TOEFL-1	Passage to Academic English	5
レンル設足ない(央部) 使足試験対束 TUEFL-1	TOEFL-1	0
 レベル設定なし(英語) 検定試験対策 TOEFL-2	Passage to Academic English	5
	TOEFL-2	
レベル設定なし(英語) 検定試験対策 IELTS	Passage to Academic English	4
	IELTS	
レベル設定なし(英語) 検定試験対策 TOEIC-1	Passage to Academic English TOEIC-1	13
	Passage to Academic English	
レベル設定なし(英語) 検定試験対策 TOEIC-2	TOEIC-2	6
A1/初級(フランス語) ちょっとチャット フランス語 a	Petite conversation en français-a	26
A1/初級(フランス語) ちょっとチャット フランス語 b	Petite conversation en français-b	13
A1/初級(フランス語) ちょっとチャット フランス語 h	Petite conversation en français-h	8
A1/初級(フランス語) 聞きトレ フランス語	Écoutez bien le français	13
A1/初級(フランス語) 発音サロン フランス語	Prononcez bien le français	3
A2/初中級(フランス語) ちょっとチャット フランス語 d	Petite conversation en français-d	7
A2/初中級(フランス語) 聞きトレ フランス語	Écoutez bien le français	11
A2/初中級(フランス語) 書きトレ フランス語	Dictez bien le français	11
B1/中級(フランス語) ちょっとチャット フランス語 e	Petite conversation en français-e	5
B1/中級(フランス語) ちょっとチャット フランス語 f	Petite conversation en français-f	4
B1/中級(フランス語) 聞きトレ フランス語	Écoutez bien le français	12
B1/中級(フランス語) 書きトレ フランス語	Dictez bien le français	11
A2/初中級(フランス語) フランス語圏なう a	La Francophonie aujourd'hui-a	5
A2/初中級(フランス語) フランス語圏なう b	La Francophonie aujourd'hui-b	7
B1/中級(フランス語) フランス語圏なう c	La Francophonie aujourd'hui-c	4
B1/中級(フランス語) フランス語圏なう d	La Francophonie aujourd'hui-d	5
B1/中級(フランス語) ニッポンなう	Le Japon aujourd'hui	9

A1/初級(スペイン語) 発音とイントネーション(a)	Pronunciación y entonación (a)	19
A1/初級(スペイン語) 発音とイントネーション(b)	Pronunciación y entonación (b)	23
A1/初級(スペイン語) 発音とイントネーション(c)	Pronunciación y entonación (c)	8
A2/中級(スペイン語) 発音とイントネーション B(a)	Pronunciación y entonación B(a)	8
A1/初級(スペイン語)		
スペイン語なんでもトレーニング(a)	Español general (a)	20
A1/初級(スペイン語)	D 21 1(1)	22
スペイン語なんでもトレーニング(b)	Español general (b)	22
A1/初級(スペイン語)	E2-11(-)	10
スペイン語なんでもトレーニング(c)	Español general (c)	16
A2/初中級(スペイン語) スペイン語語彙(b)	Vocabulario (b)	12
B1/中上級(スペイン語) スペイン語語彙(a)	Vocabulario (a)	5
B1/中上級(スペイン語) スペイン語語彙(b)	Vocabulario (b)	11
A2/初中級(スペイン語) スペイン語で読み書き(b)	Lectura y escritura (b)	17
B1/中上級(スペイン語) スペイン語で読み書き(b)	Lectura y escritura (b)	4
A1/初級(スペイン語) 楽しむスペイン語 a	Taller de español-a	16
A1/初級(スペイン語) 楽しむスペイン語 b	Taller de español-b	13
A2-B1/初級・中級(スペイン語) 楽しむスペイン語 c	Taller de español-c	8
A2-B1/初級・中級(スペイン語) 楽しむスペイン語 d	Taller de español-d	7
B/中上級(スペイン語) サバイバルスペイン語(a)	Español práctico(a)	10
B/中上級(スペイン語) サバイバルスペイン語(b)	Español práctico(b)	9
B/中上級(スペイン語)	Oratoria (nivel avanzado)(a)	1.4
スペイン語プレゼンテーション上級編(a)	Oratoria (nivel avanzado)(a)	14
B/中級(スペイン語) 異文化理解(b)	Comprensión intercultural (b)	12
A1/初級(ドイツ語)	Deutsche Alltagssprache-a	15
日常生活に生かすドイツ語〈初級文法篇〉a	Deutsche Antagsspräche a	10
A1/初級(ドイツ語)	Deutsche Alltagssprache-b	18
日常生活に生かすドイツ語〈初級文法篇〉b	Boutsone initiagespiaene s	10
A1/初級(ドイツ語)	Hörverständnisübung-a	18
日常生活に生かすドイツ語〈ヒアリング篇〉a		
A1/初級(ドイツ語)	Hörverständnisübung-b	11
日常生活に生かすドイツ語〈ヒアリング篇〉b		
A2/初中級(ドイツ語) ロ頭表現につなげる読解、聴解	Fokus - hören und lessen	9
A2/初中級(ドイツ語) 表現の多様性を書きながら学ぶ	Praktische Schreibübungen	10

B1/中級(ドイツ語) ドイツ語圏(裏)事情	Deutsche Landeskunde - Ein	3
227 / //X (1 1 / HI) 1 1 / HI II (327) 7 ///	Blick hinter die Kulissen	
 A1-B2/各級(ドイツ語) 検定試験対策	Vorbereitungskurs für das	11
AT D2/音频(17/2 m) 快足的激烈水	Zertifikat	
A2/初中級(ドイツ語)	Meine Heimat und ich: Anlässe	
AZ/が)平板(ドイン語) 自分(の街)をもう少し知ってもらおう	zu interkultureller	18
目分(の倒)をもり少し知つくもらわり	Kommunikation	
D1/由领 (1×20/3至) 口X由此づより 事体	"Subkulturen" in Japan und	4
B1/中級(ドイツ語) 日独サブカル事情	Deutschland	4
D1/由领(区2023) 产生共产业区人区中	Survivaltipps für das Leben in	6
B1/中級(ドイツ語) 学生生活サバイバル	Deutschland	
B2-C1/中上級・上級 (ドイツ語)	Interkulturelle Kommunikation	2
異文化間コミュニケーションと職業生活	- Arbeitsleben	2
AO/入門(中国語) 発音特訓講座 A、B、C、D、E、F	学少本 A D C D F F	各
AU八门(中国品) 光自符訓講座 A、B、C、B、E、F	学发音 A、B、C、D、E、F	10
A1/初級(中国語)	生活汉语 A1 班·A	10
日常生活で役立つ中国語 A1 クラス-A	生值仅信 AI 班 A	10
A2/初中級(中国語)	生活汉语 A2 班·B	7
日常生活で役立つ中国語 A2 クラス-B	生值仅增 A2 项 D	1
B1/中級(中国語)	学习惯用语和谚语 A, B	-
慣用句、ことわざを通して中国文化を学ぼうA,B	子习顺用 暗和 影暗 A, D	5
A2/初中級(中国語)検定対策補講クラス	汉语考试补习班	6
A2/初中級(中国語) 中国語で日本を知る、紹介する	了解日本、介绍日本	7
A2/初中級(中国語) 日中サブカル事情	了解中国亚文化	1
B1/中級(中国語) 中国人の生活と文化	了解中国生活和文化	3

【表 9 平成 25 年度後期 iCoToBa 開講科目】

CEFR によるレベル(言語) 科目名称	各言語科目名称	受講者数
A2-B2/初級・中上級(英語) サバイバル英語「こんなとき、なんて言う?」1	Survival English 1	7
A2-B2/初級・中上級(英語) サバイバル英語「こんなとき、なんて言う?」2	Survival English 2	13

B2/中上級(英語)今日のニュースについて話そう!1	Today's Top News 1	10
C1/上級(英語)今日のニュースについて話そう!2	Today's Top News 2	3
A2-B1/初級-中級(英語)	J-Ambassador 1	0
英語で日本PRプロジェクト・日本の魅力を発信しよう!1		9
B2-C1/中上級-上級(英語)	J-Ambassador 2	6
英語で日本PRプロジェクト・日本の魅力を発信しよう!2		
B2-C1/中上級-上級(英語)	Note Taking & Academic	2
英語で授業を聴いてノートを取る1	Listening 1	
B2-C1/中上級-上級(英語)	Note Taking & Academic	C
英語で授業を聴いてノートを取る2	Listening 2	6
A2-B1/初級-中級(英語) 発音練習 1	Pronunciation Profiles 1	6
A2-B1/初級-中級(英語) 発音練習 2	Pronunciation Profiles 2	14
B2-C1/中上級・上級(英語) 英語でディベート	Debate	7
A2-B2/初級-中上級(英語) 英語で小論	Short Essay Writing	2
B1-C1/中級-上級(英語) 想像と文章	Creative Writing	4
B2・C1/中上級・上級(英語) メディアと文化	Media and Culture	9
B2-C1/中上級・上級(英語) グローバルリーダー	Global Leader	6
	Comparative Study of	
A2/初中級(英語) 英語圏を知りつくそう!1	Cultures:The English - Speaking	16
	World 1	
	Comparative Study of	
B1/中級(英語) 英語圏を知りつくそう!2	Cultures:The English - Speaking	19
	World 2	
A2-C1/ 初級-上級(英語)	One minute Co. 1	_
1分間スピーチを練習しよう!	One-minute Speech	5
A2-B1/ 初級-中級(英語)	Research and Presentation	
プロジェクトワークを行って発表しよう!1	Project 1	4
B2-C1/中上級-上級(英語)	Research and Presentation	
プロジェクトワークを行って発表しよう!2	Project 2	11
B1-C1/中級・上級 (英語) ディスカッションに強くなる!	Group Discussion	6
A2-C1/初級-上級(英語)TOEIC Intensive 1	TOEIC Intensive 1	13
A2-C1/初級-上級(英語)TOEIC Intensive 2	TOEIC Intensive 2	11
A2-C1/初級-上級(英語)TOEIC Intensive 3	TOEIC Intensive 3	7
A2-C1/初級-上級(英語)Strategic TOEFL 1	Strategic TOEFL 1	3
A2-C1/初級-上級(英語)Strategic TOEFL 2	Strategic TOEFL 2	7

A2-C1/初級-上級(英語)Vocabulary for Exams 1	Vocabulary for Exams 1	1
A2-C1/初級-上級(英語)Vocabulary for Exams 2	Vocabulary for Exams 2	3
A2-C1/初級-上級(英語)Vocabulary for Exams 3	Vocabulary for Exams 3	7
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session 1	9
Academic Session 1~customized tutorials~	-customized tutorials-	3
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session 2	4
Academic Session 2~customized tutorials~	-customized tutorials-	4
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session3	2
Academic Session 3~customized tutorials~	-customized tutorials-	2
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session 4	1
Academic Session 4~customized tutorials~	-customized tutorials-	1
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session 5	1
Academic Session 5~customized tutorials~	-customized tutorials-	1
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session 6	1
Academic Session 6~customized tutorials~	-customized tutorials-	1
A2-C1/初級-上級(英語)	Academic Session 7	1
AcademicSession 7~customized tutorials~	-customized tutorials-	1
A1/初級(フランス語)聞きトレフランス語 I	Écoutez bien le français I	3
B1-B2/中級-中上級(フランス語) 聞きトレフランス語Ⅲ	Écoutez bien le français III	3
A1/初級(フランス語) ちょっとチャットフランス語 I	Petite conversation en français I	2
A2/初中級(フランス語) ちょっとチャットフランス語 Ⅱ	Petite conversation en français II	3
B1-B2/中級-中上級(フランス語)	Petite conversation en français III	7
ちょっとチャットフランス語Ⅲ	i etite conversation en françaism	1
B2/中上級以上(フランス語)	Petite conversation en françaisIV	7
ちょっとチャットフランス語IV	i etite conversation en françaisiv	1
A2/初中級以上(フランス語) ニッポンなう。	Le Japon aujourd'hui	10
A2/初中級以上(フランス語) フランス語圏なう。	La Francophonie aujourd'hui	10
A1-A2 初級-/初中級(フランス語)	Dachamba at Duácantation	8
リサーチ・発信プロジェクト	Recherche et Présentation	0
A1/初級(スペイン語) なんでもスペイン語	Español Básico	11
A1/初級(スペイン語) なんでもスペイン語	Español Básico	18
A2/初中級 (スペイン語) DELE A2 対策	DELE A2	9
A2 /初中級 (スペイン語) DELE A2 対策	DELE A2	1
A2/初中級(スペイン語) リサーチ・発信プロジェクト	Investigación y presentación	3

スペイン語で日本紹介 B1-B2/中級-中上級(スペイン語) 比較文化セミナー B2/中上級(スペイン語) DELE B2 対策	Presentar Japón en español Estudios culturalres DELE B2	5
		5
B2/中上級(スペイン語) DELE B2 対策	DELE B2	
		10
B2/中上級(スペイン語) DELE B2 対策	DELE B2	10
B2/中上級(スペイン語) 時事スペイン語	Noticias de Actualidad	1
	Deutsche Alltagssprache und	10
A1/初級(ドイツ語) ドイツ日常語と実践会話 1/4	Sprachpraktisches I	12
A 1 (中間 / 12 / 12 / 12 / 12 / 13 / 14 14 14 14 14 14 14 14	Deutsche Alltagssprache und	10
A1/初級(ドイツ語) ドイツ日常語と実践会話 2/4	Sprachpraktisches II	12
A1-A2/初級-初中級(ドイツ語)	Deutsche Alltagssprache und	10
ドイツ日常語と実践会話 3/4	Sprachpraktisches III	13
A1-A2/初級-初中級(ドイツ語)	Deutsche Alltagssprache und	1.4
ドイツ日常語と実践会話 4/4	Sprachpraktisches IV	14
A2/初中級(ドイツ語) 検定試験対策	Testvorbereitung	2
B2/中上級(ドイツ語)	"Mahlzeit" und "Schönen	
「いただきます」、「お疲れさま」・日独文化事情と専門用	Feierabend"-Landeskundliches	6
語	und Fachsprachliches	
A2 /初中級(ドイツ語) 海の向こうとこちら(日本紹介)	Heimat und Ferne	3
	(Japanbotschafter)	9
B1/中級(ドイツ語)	Alles Sushi? Alles Bratwurst?	
寿司や焼きソーセージの話ばかり?それとも?-異文化	Oder was? - Fokus	7
へのまなざし	Interkulturelles	
A2/初中級(ドイツ語) リサーチ発信プロジェクト	Forschungs- und	1
	Rräsentationsprojekt	1
A1/初級(中国語) 実践中国語初級編(中国学科)A	汉语常用语初级 A	1
A1/初級(中国語) 実践中国語初級編(中国学科)B	汉语常用语初级 B	10
A2/初中級(中国語) 実践中国語上級編	汉语常用语上级	4
A1/初級(中国語) 発音を学ぼう(向上編)A	学发音和朗读 A	9
A1/初級(中国語) 発音を学ぼう(向上編)B	学发音和朗读 B	10
A1/初級(中国語) 発音を学ぼう(向上編)C	学发音和朗读 C	5
B1/中級(中国語)	汉语成语,俗语	6
中国語のことわざ、四字熟語を使いたおす!	(人 归)从 归, 归	o
B1/中級(中国語) リサーチ・発信プロジェクト	实践调查与报告	6

B2/中上級(中国語) 中国語複文トレーニング	学习汉语关联词	2
A2/初中級(中国語) 中国語で日本を紹介する	用汉语介绍日本	7
A2/初中級(中国語) 中国と日本の比較文化	中日文化比较	14
B2/中上級(中国語) 慣用句で中国語リアルフレーズ	常用汉语习惯用语	5

【表 10 平成 25 年度サマープログラム iCoToBa 開講科目】

CEFR によるレベル(言語) 科目名称	各言語科目名称	受講者数
A2-C1/初中級-上級(英語) 英語で日本 PR プロジェクト-日本の魅力を発信しよう!1	J-Ambassador 1	11
B1-C1/中級・上級(英語) ディスカッションに強くなる!	Group Discussion	15
A2-C1/初中級-上級(英語) 発音練習	Pronunciation Profiles	17
A2-C1/初中級-上級(英語) TOEIC Intensive 1	TOEIC Intensive 1	14
A2/初中級(英語) TOEIC Intensive 2	TOEIC Intensive 2	17
A2/初中級(英語) TOEIC Intensive 3	TOEIC Intensive 3	14
A2-C1/ 初中級-上級(英語) TOEFL Intensive 1	TOEFL Intensive 1	11
A2/初中級(英語) TOEFL Intensive 2	TOEFL Intensive 2	7
A2/初中級(英語) TOEFL Intensive 3	TOEFL Intensive 3	7
A1/初中級(フランス語) 180 分 de 思い出しフランス語	Le français en tête en 180 minutes	7
A2/初中級(フランス語) フランス語検定準2級対策講座	Cours de préparation au DAPF - jun 2 kyu	7
B2/中上級(フランス語) フランス語検定準1級対策講座	Cours de préparation au DAPF - jun 1 kyu	8
A2-B1/初中級・中級 (スペイン語) サバイバルスペイン語	Español práctico	7
A2-B1/初中級・中級(スペイン語) 検定 A2 対策講座	DELE A2	12
A1- A2/初級-初中級(ドイツ語) 日常生活のドイツ語	Alltagsdeutsch	2
B1-B2/中級-中上級(ドイツ語) ドイツ語の映画館	iCoToBa-Kino	4
A1/初級(中国語) 発音の復習と初級中国語①	复习发音和初级汉语	13
A1/初級(中国語) 発音の復習と初級中国語②	复习发音和初级汉语	15
A1/初級(中国語) 発音の復習と初級中国語③	复习发音和初级汉语	10
A1/初級(中国語) 発音の復習と初級中国語④	复习发音和初级汉语	10
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·		

A2-B2/初中級-中上級(中国語)	日常汉语会话	6
日常生活に使う中国語①中国語リアルフレーズ	1 市 仅 旧 云 伯	0
A2-B2/初中級-中上級(中国語)	日常汉语会话	6
日常生活に使う中国語②中国語リアルフレーズ	日市仅冶云冶	6
A2-B2/初中級-中上級(中国語)	口党河洒入迁	5
日常生活に使う中国語③中国語リアルフレーズ	日常汉语会话	Э
A2-B2/初中級-中上級(中国語)	口党河洒入迁	
日常生活に使う中国語④中国語リアルフレーズ	日常汉语会话	5
B1-B2/中級-中上級(中国語)	学习汉语成语,俗语典故	2
出典を読んで中国語のことわざを覚えよう①	子习仅陷风陷,俗陷殃政	2
B1-B2/中級-中上級(中国語)	学习沉适战速 松连曲块	2
出典を読んで中国語のことわざを覚えよう②	学习汉语成语,俗语典故	2
B1-B2/中級-中上級(中国語)	学习对话中语 W语曲技	1
出典を読んで中国語のことわざを覚えよう③	学习汉语成语,俗语典故	
B1-B2/中級-中上級(中国語)	学习沉适战速 恢适曲状	1
出典を読んで中国語のことわざを覚えよう④	学习汉语成语,俗语典故	

【表 11 平成 25 年度スプリングプログラム iCoToBa 開講科目】

科目名称	各言語科目名称	受講 者数
ゲームをとおして学ぶスペイン語 Actividades sociales del mundo hispano		
メキシコ留学対策講座	Curso introductorio para estudiantes que van a	
アインコ笛子刈泉講座	Mexico (Puebla)	10





[iCoToBa での授業風景]

④異文化交流イベントの実施

iCoToBaでは、本学の学生の異文化理解および異文化交流を促進するために定期的にイベントを開催している。平成25年度に実施したイベントは、以下のとおりである。

【表 12 平成 25 年度 iCoToBa イベント】

実施日	時間	イベント名	場所	参加者数 (学外者数)
5月20日	17:30 ~19:30	iCoToBa 異文化理解セミナー(1) 県内在住の留学生から聞く	iCoToBa i Lounge	5
6月14日	10:30 ~15:50	iCoToBa 国際交流(1) ノーステキサス大生との交流	iCoToBa i Lounge / モリコロパーク	21
6月17日	17:50 ~19:20	iCoToBa 異文化理解セミナー(2) 県内在住の留学生から聞く	iCoToBa i Lounge	8
7月3日	12:30 ~14:00	シベリア連邦大学短期プログラム 留学生歓迎パーティ	モリコロパーク	47(2)
7月15日	17:50 ~19:20	iCoToBa 国際交流(2) チェコの音楽家 ギターコンサート	iCoToBa i Lounge	31
10月15日	12:10 ~12:40	TOEIC ランチョンセミナー	H201	30
10月16日	13:30 ~16:00	10 月渡日交換留学生 Welcome Party	多目的ホール	84
11月1日	12:00 ~17:00	Halloween Party	iCoToBa i Lounge	28
11月22日	17:50 ~19:20	Australian Cooking	調理室	30
12月11日	12:50 ~14:20	先輩と語り合おう! 日本でできる国際協力・難民支援	iCoToBa i Lounge	11(3)
12月23日	12:00 ~12:45	American Christmas	iCoToBa i Lounge	28
12月23日	17:00 ~21:00	Christmas Party	iCoToBa i Lounge	20
1月20日 ~24日	13:00 ~17:00	Workshop 国際映画祭	iCoToBa Activity Space	8
1月22日	13:00 ~16:00	餃子パーティ	調理室	34

⑤iCoToBa 利用者数の推移

【表 13 平成 25 年度 iCoToBa 利用者一覧(外国語学部)】

平成 25 年 4 月~12 月 (人数はのべ数)

学年	英米	フランス	スペイン	ドイツ	中国	国際 関係	計
1年	255	63	1,508	470	317	411	3,024
2年	141	97	55	207	141	187	828
3年	121	67	53	66	184	154	645
4年	153	96	116	209	96	108	778
旧カリ	11	0	46	1	7	0	65
計	681	323	1,778	953	745	860	5,340

【表 14 平成 25 年度 iCoToBa 利用者一覧(外国語学部以外)】

平成 25 年 4 月~12 月 (人数はのべ数)

W -	日本文	日本文化学部 教育福祉学部 情報	I W H-L	交換	7.1			
学年	国語	歴史	教育	社会	科学部	大学院	留学生	計
	国文	文化	福祉	福祉				
1年	9	5	3	0	7	28	249	301
2年	2	1	7	0	8	15	41	74
3年	3	11	0	0	14	0	0	28
4年	9	24	2	0	12	0	0	47
旧 カリ	0	1	0	0	0	0	0	1
計	23	42	12	0	41	43	290	451

⑥教材開発・教育手法の改善

iCoToBaでは、グローバル人材育成推進事業で目標としている能力養成を目指し、教育実践に基づく教材開発に取り組んでいる。平成25年度は、これらの成果として、4冊の教材と1冊のシラバス改善に関する報告を作成した。

「教材開発]

- a) iCoToBa Collaborative Writing Project
- b) J-Ambassador Core Book
- c) J-Ambassador Course Book (English)
- d) Japanbotschafter Kursbuch Japan auf Deutsch erklären (ドイツ語版 J-Ambassador Course Book)

[シラバス改善に関する報告]

e) iCoToBa における中国語カリキュラム・シラバスの開発 (『e-portfolio WG 2013 年度報告書』所収)

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

平成25年4月に実施したガイダンスにより、1年生のiCoToBa認知度は高く、授業以外にも施設利用するなど、来室が学生生活の一部になっている学生も多い。1年生については学科・専攻でiCoToBa教員との会話をタスクとして課す、あるいは授業受講を義務化した事例もある。このような学科・専攻の学生への働きかけが功を奏したと言えよう。

iCoToBa の授業については、教員が各自工夫をし、日々のニュースを教材に取り入れたリスニングの授業や PBL 型授業など、言語能力のみならず、言語を使って問題を解決できるようになることを目指している。また、学期ごとにふりかえりをし、次の授業内容の改善につなげている。iCoToBa 開室 1 年目ではあるが、平成 25 年度の成果として、4 冊の教材と 1 冊のシラバス改善に関する報告ができたことは、iCoToBa 教員の教育実践の賜物である。

iCoToBa のイベント参加などがきっかけとなって、iCoToBa の運営に自ら携わる学生が増え、学生自主組織である iCoToBa supporters club (ISC) が発足したことは、特に評価できる点である。ISC の行動は、単に iCoToBa でのイベント企画・実施だけにとどまらない。一例として、平成 25 年 10 月に発生したフィリピン大地震の被災地への募金活動「Stand by the Philippines」を企画し、実際に行動に移したという事例を紹介したい。

このような学生の自主的な活動をサポートする iCoToBa の教育支援が、問題意識を持ち自身で課題を見つけ解決に向けて行動する「グローバル人材」の育成につながると言えよう。

②改善すべきこと

iCoToBa を利用する学生は、リピーターとして来室する場合が多い一方で、一度もiCoToBa を利用したことがないという学生が多数派であるという状況である。特に 2 年生以上は伸び悩んでいる。学生にとって親しみやすいイベントの開催や学科・専攻との連携行事など、学生が利用するきっかけを増やすことが望まれる。

iCoToBa 開講授業の受講者を増やすことも課題である。本年度は、学生が取りやすい 5 限以降に開講する工夫もしたが、本学の特徴として、東海 3 県から自宅通学している学生が多い(つまり、通学時間がかかる学生が多い)ため、正課が終わると帰宅する学生も多く、1 限や 5 限以降の時間帯などの空き時間が「受講したい」時間帯であるわけではないようである。これを克服するには、学習への動機づけ、と利便性の二つの観点から改善を図っていくことが必要であるう。

5. 平成 26 年度に向けての方策

開室1年目のiCoToBaは、コアユーザーを獲得できたが、来年度以降はそのすそ野を広げていくということが求められる。上記 4. でも言及したが、学科・専攻との連携が効果的であるので、学科・専攻でのガイダンスや、必修科目におけるiCoToBa利用のタスク化を図るよう、はたらきかける。

グローバル人材育成の観点から、地域社会の課題解決をテーマにした授業や課題解決型授業の充実を図ることも次年度の課題である。平成26年11月には、名古屋市でESDユネスコ世界大会が開催されるので、外国語での「おもてなし」練習や愛知県の魅力を伝えるプロジェクトを取り入れた授業内容と教室活動を目指す。

加えて、「グローバル人材プログラム」の履修者を増やすための方策も立てる。具体的には、 日本紹介タスクをiCoToBaで準備し、留学先の大学で発表、現地の学生からフィードバックを 得る「夏期短期留学とiCoToBa 授業のジョイント・プログラム」の実施を計画中である。

平成 26 年 4 月に教養教育センターで任用される 4 名の外国人教員との連携についても現在調整中である。iCoToBa が、本学の国際化プラットフォームとしての機能を発揮できるよう、次年度も「つなぐ、つながる」ことをめざし、活動を続けていきたい。

5. 学修支援

グローバル人材育成推進事業では、学生の主体的な自立学習と効果的な語学能力養成を めざし、学修支援を行っている。第5章では、導入した2つのシステム(e-Learning とインタ ーネットポートフォリオ)、および、語学学習アドバイジングについて述べる。

5-1. e-Learning プログラム

1. 概要

平成 25 年 4 月より、学生の自立学習支援の一環として、6 種類の e-Learning コンテンツ を導入した。これにより、オンライン上の外国語学習環境が整備され、学生が場所と時間を選ばず学習できるようになった。導入した e-Learning コンテンツは以下のとおりである。

a) ALC NetAcademy 2 (アルク)

「リスニング」と「リーディング」の練習が中心の「スーパースタンダードコース」と、TOEIC テストに実践的に対応する「TOEIC テスト演習 2000 コース」の 2 つのコースがある。

b) Rosetta Stone (ロゼッタストーン)

入門レベルから、「聞いて話す」訓練を徹底的に繰り返すことによって、日本語に訳したり 単語や文法の丸暗記をすることなく、海外で暮らすように自然に言語を習得できる。「スピーチ解析機能」により、自分の発音が通じる発音かどうかを確認できる。本学のすべての 専攻外国語と第2外国語を含め、全部で30言語の学習が可能である。

c) WORKOUT フランス語検定(スパーズ)

年2回実施される「実用フランス語技能検定試験」の対策のための e-Learning システムである。5級から準1級まで、6つの級の練習問題が用意されている。

d) AVE Aula Virtual de Español (Instituto Cervantes)

スペイン語を母語としない人のスペイン語運用能力を測るためスペイン文部省(スペイン 国外ではセルバンテス文化センター)が実施しているスペイン語能力試験 DELE (CEFR のレベルに対応)に対応したオンラインコースである。

e) WORKOUTドイツ語検定(スパーズ)

年2回実施される「ドイツ語技能検定試験」対策のための e-Learning システムである。5 級から準1級まで、5 つの級の練習問題(聴解問題を含む)が用意されている。

f) 中国語検定過去問 WEB(高電社)

日本中国語検定協会が毎年3月、6月、11月に開催する日本中国語検定の過去問題を 学べるたオンラインコースである。。1級から準4級までのリスニングおよび筆記問題に取り組むことができる。 上記の e-Learning コンテンツのうち、「Rosetta Stone」は外国語学部の学生のみに ID が配布される(平成 25 年度は、2 学年分)が、それ以外のコンテンツは、専攻外国語として学ぶ各学科・専攻の学生と第 2 外国語でそれぞれの言語を履修する本学の学生にも ID を配布した。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成 25 年度の e-Learning 導入を目指し、導入教材を選定する。また ID 配布からガイダンスまでの一連のシステムを構築する。学科・専攻教員に対する e-Leaning ガイダンスを実施し、導入の周知に努める。加えて、語学学習コーディネータを中心に e-Learning 利用促進のための方略を策定、実施する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①利用状況

平成25年度の利用状況は以下のとおりである。

【表 15 平成 25 年度導入 e-Learning 利用状況】

コンテンツ名	対象者	配布 ID
ALC NetAcademy 2	本学の全学生および教職員	2,856
Rosetta Stone	英米学科:1、2 年生 フランス語圏専攻:1 年生および希望者 スペイン語圏専攻:前期3、4 年生、後期1、2 年生 ドイツ語圏専攻:前期1、2 年生、後期1、3 年生 中国学科:2、3 年生 国際関係学科:前期2、4 年生、後期2、3 年生 残りIDについては、希望者を募集	794
WORKOUT フランス語検定 WORKOUT ドイツ語検定	フランス語圏専攻 フランス語 I, II, III(教養科目)履修者 ドイツ語圏専攻 ドイツ語 I, II, III(教養科目)履修者	689
AVE Aula Virtual de Español	スペイン語圏専攻 スペイン語 II, III (教養科目) 履修者	
中国語検定過去問 WEB	中国学科 中国語 I,Ⅲ,Ⅲ(教養科目)履修者	503

②ガイダンスおよび学生サポート

新学期に開催される学科・専攻別ガイダンス(新入生対象、在校生対象)で ID の配布とe-Learning に関する説明、使い方に関するリーフレットを配布した。その後、新入生は、2回

目の iCoToBa ガイダンス (第4章参照) でパソコン操作も含めた講習を実施した。在校生には、4月に2回 ALC NetAcademy 2のガイダンスを実施、他言語のプログラムも専攻授業内で説明を行った。第2外国語の英語受講者には、5月末に授業を通じてALC NetAcademy 2の ID を配布した。

教員対象ガイダンスは、3 月に外国語学部教員対象、4 月全学共通外国語科目の英語担当者(非常勤講師を含む)対象、の計 2 回実施した。

また、iCoToBa では、語学学習コーディネータによる 個別ガイダンスや、e-Learning 利用促進のためのイベン ト(TOEIC7、e-Learning Festival など)を実施した。



[e-Learning Festival ちらし]

③学科・専攻外国語科目における導入

国際関係学科では、ALC NetAcademy 2 や Rosetta Stone (英語)の学習を、学科専攻外国語科目の「オーラルコミュニケーション初級(1 年次科目)」「オーラルコミュニケーション中級(2 年次科目)」「総合英語(3 年次科目)」の単位修得の要件に定めた。また、ドイツ語圏専攻では、1 年生の専攻外国語の授業で Rosetta Stone (ドイツ語)の学習を課したり、スペイン語圏専攻も、1、2 年次専攻外国語クラスで AVE を課題として指示するなど、e-Learning コンテンツを正課に取り入れた指導に取り組んだ。このような e-Learning の段階的な学習を単位修得の要件にすることについては、学部内でも議論の分かれるところであるが、実験的な試みとしては評価できるだろう。

④英会話サプリ(リクルート)の実験的導入

「英会話サプリ」は株式会社リクルートマーケティングパートナーズ事業開発室が開発したインターネットによる英会話教材である。Level 1~7(TOEIC スコア 250~750 に対応)が設定され受講前に CASEC によるレベル判定を行い、適切なレベルから学習する。海外にいる外国人講師とSkypeを通じてマンツーマンで英会話を学べるオンラインサービスである。1回 25 分で月 10 回まで受講できる。

平成26年度からの一般発売にさきがけて、本学が50名分のモニター受講の提案を受けた。 グローバル人材育成推進室会議で導入の承認を得て、10月に募集、先着順に50名を決定 した。受講期間は平成25年11月~平成26年3月である。 11 月から 1 月までの 3 か月間で、44 名の学生が受講した。そのうち、5 回以上受講した学生は 19 名である。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①②効果が表れていること、および改善すべきこと

e-Learning は学生の自主的な学習が前提となるため、利用率を上げるのはなかなか難しいのが実情である。そこで導入初年度の今年は、効果、改善点の双方を指摘しつつ述べる。

全般的に見て、平成25年度の e-Learning 利用率は低いと言わざるを得ない。e-Learning を 1 回以上使用した学生の割合は、英米学科 24.4%、フランス語圏専攻 6.9%、スペイン語圏 専攻 7.6%、ドイツ語圏専攻 6.8%、中国学科 12.3%、国際関係学科 64.1%である。国際関係学科の使用率が高いのは、1 年次から 3 年次の専攻外国語科目に e-Learning を課しているためであり、このことからも、正課科目の教材のひとつとして採用し、単位認定や成績の一部にするなど、学生にとって「取り組まなければならない理由」をつくることが利用率上昇には欠かせないと言える。

しかし一方で、単に「ログイン」するだけでは語学力の養成にはつながらないという指摘もある。例えば、本年度の国際関係学科はe-Learning課題を「指定したe-Learningを終了させること」と設定したが、この場合、実際には学習していない(極端に学習時間が短く、おそらく機械的に選択肢をクリックしただけではないかと疑われる)ケースがあることが判明した。そこで、2年生について、学習時間とTOEICの得点推移に着目して分析したところ、課題を30時間以上かけて取り組んでいる学生14名のうち、TOEICを2年分受験している学生12名の平均点は46点上昇していた(2年生全体の平均点の伸びは15点)。このことからも、時間をかけて取り組んだ場合、TOEICの得点をあげる可能性が高いと考えられる。以上の点から、e-Learningを課題にする場合は、「終わらせる」ことに注目しない課題設定をすることが重要であると言えよう。

あわせて、学生の e-Learning の取り組みをを外的動機づけのみに結び付けるのではなく、 学習目的に結びつけるための方略も必要である。自主的に取り組んでいる学生にインタビューし、モデルケースをイメージさせる、学生同士の自主学習グループをサポートするなどの方法を考えたい。

5. 平成 26 年度に向けての方策

上記で言及した方略のうち、可能性のあるものを取り組む。また、学習者と教材とのレベルのミスマッチや、学生の学習スタイルとの兼ね合い、専攻言語、第2外国語のカリキュラムとの兼ね合いを考慮に入れたうえで、場合によっては、より効果的なシステムへの変更も含め、検討していきたい。

5-2. インターネットポートフォリオ

1. 概要

自立的な学びを支援するツールのひとつに、「学習ポートフォリオ」がある。学習ポートフォリオは、学習経験と成果、レポートなどの学習成果物を記録、保存するためのものである。学習ポートフォリオに記録をつけていくことで、学生は目標にむかって計画を立て、行動し、ふりかえる、という一連の学習過程をマネジメントする能力を身につけることができる。また、ポートフォリオは、教師は、学生の学習状況を把握し、効果的なアドバイスができるという利点も有している。インターネットポートフォリオは、以上のような学習ポートフォリオの利点に加え、遠隔地での指導が可能であることや、同じ科目を履修している学生とのピア・ラーニングができるため、留学中の学生への指導や、海外協定大学との協働による教育も可能となる。

留学前から留学後までの一貫した教育を実施するために、本事業では、「インターネットポートフォリオ manabafolio(以下、manaba)」を平成 25 年 2 月に部分的に導入し、平成 25 年度より本格導入した。

平成 25 年度は、外国語学部と、iCoToBa 科目の一部と、グローバル人材プログラム、iCoToBa での履修管理システムとして利用した。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成25年度のmanaba本格導入に際して、外国語教員への利用ガイダンス実施と、学生へのオリエンテーションを実施する。iCoToBaの授業およびグローバル人材プログラムの履修管理システムを構築し、教務指導に活かす。

留学中の学生指導および生活支援にmanabaを活用する。これに加えて、manabaを活用 した教育実践事例の蓄積をし、教育における活用方法について検討する。

学生および教員の利用を高めるために、manaba のコミュニティ機能を活用し、情報発信を行う。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①平成 24 年度春季短期留学での試用

平成 25 年 2 月から 3 月にかけ、海外協定大学派遣プログラムに参加した 59 名の学生を対象に、manaba を用いた留学前および留学中の指導を実施し、本格導入に向けて改善点を整理した。実施した内容は以下のとおりである。

- a) 学生への manaba 利用ガイダンスの実施
- b) 国際交流室およびグローバル人材育成推進室との事務連絡および、事前準備などの 情報提供
- c) 国内にいる教員による留学中の学生への遠隔指導
- d) 学生および教員とのネット・ディスカッション

e) 留学中の経験の共有

a~e において一定の成果があったが、課題も明らかになった。

留学する学生コミュニティを構築するために manaba を活用したいと考えていたが、学生は、彼らにとってより簡単にアクセスできる Facebook や LINE などの SNS サービスを優先した。これは、manaba のコミュニケーション機能だけに注目した判断であり、本来のポートフォリオの役割を学生が十分に理解していないことに起因する。以上の反省から、平成 26 年度のmanaba ガイダンスでは、「使い方」よりも「目的」に重点を置いた内容にすることにした。

また、留学先においてパソコンでインターネットにすぐアクセスできなかった事例もあり、事前にインターネット環境を確認しなければならないことが明らかになった。

②履修管理システムの構築

平成 25 年度前期の授業開始に合わせ、manaba レポート機能を利用した独自の履修登録システムを構築した。



【図 5 manaba 履修登録システム登録画面】

③教員および学生を対象とした説明会の実施

平成25年3月に、学科・専攻別に外国語学部とiCoToBaの全教員を対象としたmanabaガイダンスを6回開催した。1回ごとの説明会の参加人数をできるだけ少なくし、ワークショップ形式で実施することで、操作方法だけでなく、①の春季短期留学での教育実践の紹介をと共に、4月からの教育にどのように応用できるか議論を深めることができた。

学生へ対するオリエンテーションは、第4章で述べた「iCoToBa新入生ガイダンス」の第2

回目に行った。そのほかにも在校生に対するガイダンスを4月に3回実施したのに加え、平成25年度前期には、iCoToBaにおいて昼休みの時間帯に「manabaサポートデスク」を設置し個別対応を行った。

④留学中の学生に対する指導

平成24年度春季短期留学プログラムすべてにおいて、担当教員がmanabaを用いた学生指導を行った。また、インドネシア・ガジャマダ大学での留学プログラムでは、語学研修に加えて、ガジャマダ大学の協力も得てmanabaを活用したワークショップ型の教育プログラムを実践した。プログラムの内容は以下のとおりである。

a) 画像をもとに話し合う「異文化&自文化理解」ワーク

留学前に、本学の学生が「日本らしさ」を表している写真を撮り、manaba にアップし、意見を交換する。異なる視点で「日本」をとらえ、「自文化」をより深く理解することを目的に、現地で、ガジャマダ大学の学生と共に、本学の学生が準備した写真をもとにディスカッションを行った。計画当初は、画像素材を中心に進める予定だったが、manaba の利点を活かし、学生が音声データをアップしたことをきっかけに、多種類の情報に基に考察することができた。



[学生が manaba にアップした「日本らしさ」を表す写真]

b) モノを通した日本紹介~さわる・うごく・つくる・あそぶ~

留学前に、ガジャマダ大学の学生に日本文化を紹介することを目的に、学生がグループで、アクティビティを計画、現地で2回実施した。「計画を立てる→1回目の文化紹介ワークを実施し、ふりかえる→manabaにアップする→教員からのフィードバック→改善点を考え2回目のワークに取り組む→ふりかえりレポートをmanabaにアップする」という学びのPDCAサイクルに沿った指導をすることができた。





「モノを通した交流:デコうちわをつくる]

「うごく!インドネシア語でラジオ体操】

上記の春季短期留学プログラムの実践を参考にしつつ、平成 25 年度夏季短期留学プログラムから「リサーチ・発信プロジェクト(留学中)」を開始した。留学前に学生自身に留学中に明らかにしたい研究テーマを設定させ、留学中に担当教員のアドバイスを得ながら、発表内容を完成させる、というものである。



【図 6 manaba を活用したリサーチ・発信プロジェクト(留学中)の指導】

平成 25 年度は、夏季短期留学プログラム参加者うち 5 名が履修し合格した。 平成 25 年秋から 1 年間留学をしている学生 4 名、および平成 26 年 2 月から 3 月に実施される春季短期留学プログラム参加者のうち 5 名が、現在「リサーチ・発信プロジェクト(留学中)に取り組んでいる。

⑤manaba によるコミュニティの形成と情報発信

平成25年4月のmanaba導入時から、グローバル人材育成推進室およびiCoToBa委員が中心となって、外国語学習や留学、研究ゼミなどに関するコミュニティを立ち上げている。また、学生にmanabaが浸透するにつれ、学生の自主的なグループもコミュニティを形成しつつある。現在、42のコミュニティが立ち上がっており、さまざまな情報発信が行われている。

⑥e-portfolio ワーキンググループの発足

manaba 上に外国語学習記録を蓄積するシステム構築を目指して、平成 25 年 10 月に、グローバル人材育成推進室に「e-portfolio ワーキンググループ」が発足した。定期的に会議を開催し、平成 25 年度中に、メンバーが担当する言語(英語、スペイン語、中国語、ポルトガル語、日本語)について、到達目標案を作成し、報告書にまとめる予定である。

⑦manaba を活用した教育実践の発信

上記①~⑤の実践について、2回の実践発表を行った。

a) 第 12 回 manaba セミナー(平成 25 年 7 月 5 日 於東京・経団連ホール) タイトル「グローバル人材を育成するための『発展的留学制度』と manabafolio による入 学~卒業までの学修支援 |

発表者 小池康弘(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻)、宮谷敦美(国際関係学科)

b) 神戸大学グローバル教育推進委員会(平成 25 年 11 月 11 日) タイトル「愛知県立大学グローバル人材育成推進室における e-portfolio 導入の取り組 み」

発表者 宮谷敦美(国際関係学科)

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

平成 25 年度の manaba 導入時に集中的に教員対象ガイダンスを実施したことにより、manaba の浸透は非常に速かったと評価できる。研究演習が受講者数も少なくピア・ラーニングに適しているという判断から、平成 25 年度開講のすべての研究演習科目をコース登録し、可能であれば manaba を活用した指導するように依頼したことと、これにあわせて外国語学部の教員全員に担当科目の manaba コース設定アンケートを取ったことにより、初年度ながら、利用した教員は多かったようである。平成 26 年 1 月現在、教員 114 名と学生 1734 名がユーザー登録し、平成 25 年度は、全部で 574 コースが運用されている。

また、国際交流室と連携し、海外留学前に manaba オリエンテーションに参加させ、留学中の manaba 利用を義務づけたことにより、留学中の学習指導とともに一括した学生管理を行っている。 さらに、留学を希望する学生に対して、留学中の学生が現地の情報提供をするなど、

双方向コミュニケーションに基づく留学支援が可能となった。

加えて、manaba を利用することにより、本学のグローバル人材育成推進事業の成果を蓄積するシステムを構築できた。グローバル人材育成推進室会議、iCoToba 委員会において議事録、資料などの共有管理が可能になったことや、必要に応じてネット上の議論により迅速な意思決定ができるようになったことなど、業務上の効果も見られた。

②改善すべきこと

全学の教務システムとして Universal Passport(以下、UNIPA)が導入されているため、外国語学部の学生にとっては manaba と UNIPA の使い分けが難しかったようである。また、上述したように、学生が頻繁に利用している Facebook や twitter、LINE などの私的なコミュニケーションツールがあるため、manaba も単なるコミュニケーションツールとして認識された。そのため、学びの蓄積という本来の目的や、ピア・ラーニングの楽しさを認識させない限り、manaba の利用は大幅に増えないと予想される。このため、入学時の学習動機づけと共に、学生が強く意識する就職活動、つまりキャリア支援の観点に立った manaba の運用が求められる。

5. 平成 26 年度に向けての方策

「学びの蓄積」という観点から、語学学習の到達目標を明示した上で、自身の成長をモニターできる Can-do チェックリストを作成し、manaba に蓄積するシステムを構築する。また、関係部署と連携しつつ、入学時から卒業まで一貫した学びの蓄積をつくるためのガイダンスや指導方法について改善する。

また、学生の利用を増やすためには、正課科目およびiCoToBa 科目における利用が前提となる。来年度は、iCoToBa 科目での運用を増やすとともに、具体的な教育実践について、教員と情報共有を図っていきたい。

5-3. 語学学習アドバイジング

1. 概要

外国語学習のサポートを目的として、語学学習アドバイザー教員が iCoToBa に常駐し、海外留学を見通した上での外国語学習および留学後のフォローアップや、TOEIC をはじめとする検定試験対策などに関するアドバイジングを行っている。 週 10 コマの語学検定対策を中心とした授業に加えて、週6回相談時間を設定し、カウンセリングによる学生対応を実施している。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

次の3点に関するアドバイジングを実施し、学生の語学学習に対する意欲づけおよび語学 力向上を図る。

まず、留学に必要な語学力に関するアドバイジングである。英語圏留学に際して、学部留学希望者は英語力の証明としてTOEFLまたはIELTSのスコア提示が留学先より求められる。語学留学ではなく、大学学部留学を実現させたいという強い希望をもった学生が受験準備に関するカウンセリングを実施する。

次に、グローバル人材プログラム修了要件の一つに TOEIC などの検定試験のスコアがあり、 学生の外国語学習の動機づけの一つとなっている。就職活動時に語学力の証明として TOEIC スコアを提出することが多いため、TOEIC 受験前に短期間で英語力を伸ばしたいと 学生からの相談への対応と助言である。

最後に、e-Learning の活用の推進である。iCoToBa の Self-Study Space に設置されている 14 台のパソコンを用い、効果的な利用方法を学生に紹介し、外国語学習における学生の自律学習をうながす。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

個別面談を中心としたアドバイジングにより、きめ細かい対応ができた。

留学希望の学生の学習歴やテストにおける弱点などを把握したうえでのアドバイスを心がけた。具体的なアドバイス内容としては、問題集の紹介やスピーキングとライティングの学習方法に加え、それぞれのテストの問題構成や採点方法にも触れることが多かった。その際、学生からは過去問(模擬試験問題など)を用いて攻略方法を重点的に解説してほしいという要望を受けた。

グローバル人材プログラム修了のために TOEIC スコアが重要なだけでなく、中学校および 高等学校の英語教員志望の学生からは、その受験資格に TOEIC スコアが有効であるため、 就職試験対策の一環としての TOEIC 受験に対するアドバイスを求められることもあった。このような場合、総合的な語学力強化と言うよりも戦略的かつ集中的にスコアのアップを達成するようなアドバイスが必要であった。

また、外資系または海外勤務を希望する学生から、履歴書作成に関する相談を受けることがあった。このような相談には日本語の履歴書との違いを踏まえ、カバーレター(添え状)も含めた指導を行った。実際に履歴書を作成しながらアドバイスするなど、実践的な指導を心がけた。

学生の自律学習能力養成のために、週に2時間、e-Learning 相談時間を設定している。これに加えて、e-Learning 強化週間を設定し、より多くの学生が e-Learning を積極的に活用するように働きかけた。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

留学準備とし TOEFL や IELTS の受験には、スピーキングセクションおよびライティングセクションではリスニング力が大きく関わってくるため、リスニングを日常的にトレーニングできるように TED などスマートフォンや iPad を用いて気軽にアクセスできる無料動画サイトを紹介し、これらを活用した学習方法を紹介した。加えて、外国人教員による iCoToBa の Academic Listening、One-minute Speech、Short Essay Writing、Creative Writing などの受講を推奨することが試験勉強の効率を上げたと考えられる。

また、学生の要望に応じて、試験対策のミニ講座を開催した。個々の学生の意見を反映させやすいチュートリアル形式の講座であるため、より内容の濃いアドバイスが可能となる。このような学習アドバイジングでは、試験のスコアを上げることだけが目的ではなく、実際に留学することを想定し、留学中に必要とされる包括的な英語力向上を目指す学生への一助となっていたと思われる。

②改善すべきこと

iCoToBa では e-Learning を位置づけ、検定試験対策および多言語能力向上のためのプログラムが用意されているが、学生の利用実績はまだ十分に伸びていない。平成26年度に向けて、学生のニーズを把握しながら適切な授業を受講するようアドバイジングを工夫したい。

また、外国語学習をサポートする上で、多文化を理解することや留学先でのコミュニケーションのとり方などを身につけることは、留学のための試験勉強と同様に大切である。学生には、外国人教員と自由に会話し、外国語によるコミュニケーション力強化を目的として iContact の時間を設定している。しかしながら、利用者に偏りがみられること、利用時間帯によっては利用者が少ないなどの課題がある。iContact の効果的な利用方法について、今後学生にアドバイスを行っていきたい。

5. 平成 26 年度に向けての方策

平成25年度はiCoToBa開室の初年度であり、学習アドバイスのシステム構築については、 今後、改善していく余地が大いにあると思われる。今後、学生の要望も調査しつつ、改善を加 えていく。

平成26年度は今年度以上に、e-Learningの活用、iContactの有効利用、iCoToBa施設内の書籍、DVD、デバイスなどの充実および効果的活用、留学意欲を高めるような学習アドバイスに努めていきたい。

6. 語学検定

1. 概要

本大学の「グローバル人材育成推進事業」では、目標の一つに複数言語の習得をあげており、その達成度の指標の一つとして、語学検定を用いている。具体的に、英語を専攻言語とする、英米学科・国際関係学科においては、TOEIC 800 点または TOEFL iBT 88 点以上に加え、第二外国語においても決められた語学検定に合格する必要がある。逆に、英語を専攻言語としない、ヨーロッパ学科および中国学科においては、TOEIC 730 点または TOEFL iBT 80 点以上に加え、各自が専攻する外国語について、指定の語学検定に合格する必要がある。

語学力評価の方法として、英語は年に1度 TOEIC を実施し、外国語学部全学年の受験を大学が負担する。フランス語は実用フランス語技能検定、スペイン語は外国語としてのスペイン語検定試験(DELE)、ドイツ語はドイツ語技能検定試験、中国語は中国語検定を使用し、これらの外国語を専攻言語または第二外国語として選択している2年生および4年生が受験する。

本年度は、TOEIC を平成 25 年 10 月 30 日(3、4 年生対象)と11 月 6 日(1、2 年生対象)に実施した。実用フランス語技能検定、DELE、ドイツ語技能検定試験、中国語検定は、11 月 23 日、24 日の両日、またはいずれかの日に実施された。また、教員間の本事業達成目標の認識を高めるために、平成 26 年 1 月 15 日に TOEIC FD を実施した。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

構想調書においては平成 25 年度の卒業生複数言語能力達成人数を 40 人(英米学科・国際関係学科 10 人、ヨーロッパ学科 25 人、中国学科 5 人)と設定している。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①検定試験の結果と分析

本報告書作成時点では、TOEICと中国語検定の結果しか明らかになっていない。

a) TOEIC

平成25年度のTOEICの結果は以下のとおりである。

【表 16 平成 25 年度 TOEIC 学年別平均点】(カッコ内の数字は受験率)

	1 年生	2 年生	3年生	4年生
英米学科	624.8 (96%)	642.8 (93%)	698.7 (90%)	760.2 (69%)
国際関係学科	569.0 (100%)	564.1 (89%)	660.0 (85%)	719.9 (63%)
ヨーロッパ学科	510.1 (92%)	554.7 (74.3%)	547.9 (69.3%)	599.5 (67.7%)
中国学科	457.6 (75%)	502.8 (72%)	530.6 (60%)	558.0 (71%)

ちなみに、昨年度(平成24年度)の結果は以下のとおりである。

【表 17 平成 24 年度 TOEIC 学年別平均点】(カッコ内の数字は受験率)

	1 年生	2 年生	3年生	4 年生
英米学科	560.5 (97%)	619.4 (94%)	695.6 (95%)	719.7 (86%)
国際関係学科	548.8 (96%)	598.5 (96%)	624.0 (92%)	697.8 (65%)
ヨーロッパ学科	500.2 (85%)	508.9 (85%)	505.9 (85%)	586.2 (85%)
中国学科	474.0 (93%)	510.6 (88%)	449.5 (64%)	504.3 (70%)

4年生はすべての学科で得点が伸びている。また、表には掲示していないが、今年度受験した、英米学科・国際関係学科 4年生において、TOEIC 800 点以上を得点したものは昨年度が30.6%(108人中33人)なのに対し、本年度は42.2%(135人中57人)と増加しており、目標の7割に近づきつつある。英語を専攻言語としないヨーロッパ学科・中国学科においても、TOEIC 730点以上に到達したものは昨年度が13.6%(140人中19人)、今年度23.5%(204人中48人)と目標の7割にはまだ遠いが全体的に得点が向上していることが分かる。

b) 中国語検定

中国語検定の結果は以下のとおりである。

【表 18 平成 25 年度中国語検定受験結果一覧】

	□ 100 411	願書	受験	受験率	合格	合格率
	受験級	提出数	者数	(%)	者数	(%)
平成 25 年度卒業見込み者		90	0.0	00.1	0	0.5
(注)	0 \land	28	23	82.1	2	3.5
4年生(注)	2級	4.4	39	88.6	11	12.9
※卒業見込者含む		44	59	00.0	11	12.9
2年生(第一外国語)	3 級	18	16	88.9	12	21.1
2年生(第二外国語)		39	26	66.7	0	0.0

(注)第1列の2段目「平成25年度卒業見込み者」と3段目「平成25年度卒業見込み者」の違いに

ついて、形式上本学では両者とも4年生とみなされるが、3段目の「平成25年度卒業見込み者」は留学などに伴い休学をした学生も含まれるため、今年度卒業しない学生も含まれる。

中国語検定の受験料補助は本年度より本格的に開始したため、比較可能な昨年度のデータはない。しかし、学生の中には、既に自主的に受験し、合格していた者もおり、その数を含めた結果を下に記す。

	亚黔纽	該当級	平成 25 年度	目標	達成率
	受験級	保持者数	合格者数	達成者数	(%)
平成 25 年度卒業見込み者	0 \land	12	2	14	24.6
4年生※卒業見込者含む	2級	18	11	29	34.1
2年生(第一外国語)	2 √17	32	12	44	77.2
2年生(第二外国語)	3級	0	0	0	0.0

【表 19 平成 25 年度の中国語検定合格者一覧】

「該当級保持者数」が自主的に受験し合格した者の数を表している。中国学科の教員が本事業開始以前より、検定試験の受験を積極的に勧めていることもあり、中国語を専攻している2年生の3級合格率は77.2%と既に本学が調査書で挙げた目標の7割を達成しており、4年生についても、2級合格率が目標の5割に達成する見込みが高い。課題は、中国語を第二外国語として選択している学生の合格者がゼロということで、目標の5割にほど遠い。

②TOEIC FD の実施

上記の結果を踏まえ、平成 26 年 1 月 15 日に TOEIC FD を実施した。大森裕実(英米学科)「TOEIC 成績の現状と課題」、堀一郎(外国語学部長)「グローバル事業申請書の目標値と実績」、石原覚(英米学科)および四ツ谷亮子(ヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻)「e-Learningについて」、福岡千珠(国際関係学科)「国際関係学科の取り組みについて」という 4 つの内容について報告を行った。「TOEIC 成績の現状と課題」においては、2 ヶ年度の成績分布をもとに、英米学科では半年から 1 年の留学をすれば、800 点以上の獲得は実現可能であり、留学しない場合は、iCoToBa の利用が不可欠であろうと述べた。その他、各学科・専攻別のe-Learningの使用状況などについて報告があった。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

語学試験の結果に関し、専攻言語、すなわち、英米学科・国際関係学科にとっての英語、 中国学科にとっての中国語の目標値達成に向けて、無難なスタートがきれたと感じられる。

②改善すべきこと

他方、結果が出そろっていないので、何とも言えないが、複数言語の目標達成の見地から するとまだまだ目標には遠い。また受験率が上級学年になるほど悪くなっている。

5. 平成26年度に向けての方策

目標達成には、第二外国語の能力向上が不可欠である。そのため、複数言語能力の有効性を学生に訴え、第二言語の学習モチベーションを向上させるとともに、iCoToBa やe-Learningの活用を専攻言語に限らず、第二外国語学習にも活用するよう、教員が授業などを通じて訴える必要があろう。

7. 留学および支援体制

7-1. 学術交流協定大学の協定締結と単位認定留学

1. 概要

本構想では外国語学部の6割の学生が学士課程教育の一環として単位認定を伴う留学を経験し、グローバルに通用する人材となることを目標としている。その実現のためには学術交流協定大学の一層の増加と、留学先大学での適切な教育、実質的な単位互換制度の構築が大前提となる。留学を視野に入れた 4 年間の学修計画とその履修指導、入念な留学前カウンセリング、留学後の学修計画とキャリア支援の体制を整備し、その仕組みを実質的に機能させていくためには、軸となって業務を担うマネジメント・スタッフと、留学と履修情報を管理するシステムの構築が不可欠である。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

本事業の採択後、外国語学部教員を中心に海外大学協定調査を行い、平成25年2~3月にアメリカ、インドネシア、オーストラリア、メキシコ、イギリス、スペイン、香港、モンゴルでの学術協定の打診、交渉を進め、平成25年度中の学術協定調印締結を目指した。これとともに学生派遣・交換の協定を進めることを計画した。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①新たに学術交流協定を締結した大学

平成24年度まで大学全体ですでに学術交流協定を締結した21大学に加え、平成25年度に新たに協定を結んだ大学は6大学にのぼり、平成25年12月現在、8大学で協議中である。

「新規学術交流協定大学および協議中の大学」(※は協議中)

- ・ポートランド州立大学(米国)
- ・プレスビテリアン大学(米国)※
- ・オッターベイン大学(米国)※
- ・セントラルランカシャー大学(英国)
- ・ニューカッスル大学(イギリス)※
- ・プンペウ・ファブラ大学(スペイン)
- ・ア・コルーニャ大学(スペイン)

- ・サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学(スペイン)
- ・プエブラ自治栄誉大学(メキシコ)※
- ・メキシコ国立自治大学(メキシコ)※
- ・グアダラハラ大学(メキシコ)※
- ・ペルー・カトリカ大学(ペルー)
- ・静官大学(台湾)※
- ·東呉大学(台湾)※

②単位認定留学者

協定大学への単位認定留学は、平成25年度、1年未満交換留学生22人、1年未満派遣留学13人、ショートビジットは62人で合計97人、平成24年に比較して大幅に増加している(類似の分類による集計、平成24年実績37人)。これは、海外協定大学の拡大と日本留学支援機構(JASSO)からの補助金支援受給者増加(1年未満交換留学生15人、1年未満派遣留学3人、ショートビジット25人、計43人)の結果によるところが大きい。

夏期・春期短期派遣留学の実績は以下のとおりである。

[平成24年度春期短期派遣留学]

・ニューヨーク州立大学フレドニア校(米国)	15人
・アシュランド大学(米国)	10 人
・ラスアメリカス大学(メキシコ)	22 人
・ガジャマダ大学(インドネシア)	11 人

[平成25年度夏期短期派遣留学]

・アリゾナ州立大学(米国)	3 人
・ポートランド州立大学(米国)	7人
・セントラルランカシャー大学(イギリス)	8人
・サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学(スペイン)	6人
・ラスアメリカス大学(メキシコ)	1人
・シベリア連邦大学(ロシア)	4人
・ガジャマダ大学(インドネシア)	10 人

[平成25年度春期短期派遣留学]

・アリゾナ州立大学(米国)	3 人
・ニューヨーク州立大学フレドニア校(米国)	8人
・ラスアメリカス大学(メキシコ)	11人

③日本留学支援機構(JASSO)からの奨学金受給者

【表 20 平成 25 年度日本留学支援機構(JASSO) 奨学金受給者】

1 年未満交換留学	15
1年未満派遣留学	3
ショートビジット	25
合計	43

(単位:人)

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

平成25年度において協議中の大学を含めて14大学と学術交流協定が締結される予定であり、またそれに伴い単位認定留学も大幅に増加し、評価できる。

②改善すべきこと

協定大学の締結とその結果の単位認定留学がスペイン、メキシコなど地域的に偏りがある。 学生の希望が多い英米圏での協定大学が、イギリスでは増加したが、アメリカ、オーストラリアなどは依然少ない。

5. 平成 26 年度に向けての方策

以上の問題から、今後、英語圏、およびフランス語圏の協定大学開発および単位認定留学 の道を探る必要がある。

7-2. 留学アドバイジング

1. 概要

外国語学部学生の留学の 60%を単位認定大学留学とし、留学前→留学中→留学後の各段階で必要な能力を育てる体系的プログラムを実施するためには、留学前に留学やグローバル人材への強い動機づけを行い、1、2年生で「留学前プログラム」を履修させ、留学中は明確な目的意識を持った上で学修させ、帰国後は「帰国後プログラム」によってフォローするという留学アドバイジングが必要である。そのため、平成 25 年 4 月から iCoToBa において専任の留学アドバイザーによる留学アドバイジングを開始した。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成25年度4月以降、新入生に対するオリエンテーションと、2年生以上に対するきめ細かなアドバイジングを実施し、外国語学部学生の留学60%以上が単認定留学するという目標を達成するために、以下のことを企画した。

- a) 入学時のオリエンテーションで、学士留学の意義・効果について啓蒙する。
- b) 授業の合間の休憩時間を利用した週6コマ(ランチタイムも活用)の留学アドバイザーによる恒常的留学相談時間を設定する。
- c) 留学体験者による具体的な留学情報に触れる機会を提供し、アドバイジングを多角的に 行う。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

平成 25 年度(平成 26 年 1 月まで)に留学相談に訪れた学生は約 50 名で、その半数が1 年生、2 年生が 40%で残りが 3、4 年生であった。相談者のうち平成 25 年度に留学した学生が 1 割、平成 26 年度留学予定が 8 割、未定が 1 割であり、1 年先の留学を計画して相談する学生が多かった。プログラム期間は半年以上の留学を希望するものが 6割、短期 1ヶ月前後が4割である。短期の語学研修に参加する学生の多くは個人的に民間業者に相談している場合が多いが、半年以上の場合は学部の担当教員ではなく、留学アドバイジングに相談に来た事例が多い。長期の留学計画者にとって留学アドバイジングは有益になっている。

また留学の一般情報だけではなく、それぞれの国・留学形態などの詳細な情報を提供する機会も新しく設けたが、特に夏に留学から帰国した学生たちの協力を得て、毎週木曜日のランチアワー学生主体の留学報告会という形で開いたが、真剣に留学を考えている学生たちにとっては貴重な機会であり、毎回の参加者は平均5~6人と少人数ではあったが、企画の内容は好評であった。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

iCoToBa におけるマンツーマンの留学アドバイジングや学生の自主企画によるランチアワーの開設によって、学生の留学に対する不安を軽減するとともに、留学への関心も高まり、初年度としては上々の成果を上げた。

②改善すべきこと

留学アドバイジングに関する広報不足から相談学生が予想を下回った。またアドバイジング 内容が留学前の相談に終始した。留学後のアフターケアー面での相談は、ほとんどなかっ た。

5. 平成 26 年度に向けての方策

平成 26 年度は2年目に入る。入学時のオリエンテーションにおける留学への啓蒙を続けるとともに、前期のうちに新入生全員と留学に関する面談を行い、留学関連情報を記録し、より細かいニーズに対応する予定である。また平成 25 年度は「留学中のリサーチ発信プロジェクト」を終えて帰国する学生もいるため、その経験を生かして、留学前→留学中→留学後と有機的につながるように、プログラムを組む。また好評の学生主体の個別留学報告会も継続して毎週催していきたい。

7-3. 留学中の学習支援

1. 概要

留学をはさんだ発展的教育課程の中で、「留学中のサポート」が果たす役割は大きい。もちろん留学前の準備は大切だが、留学中にどのように過ごすかは、さらに重要になってくる。これまで遠隔地からどのように学生をサポートするか、あまり議論されてこなかった。平成 24 年度末から、インターネットを使ったポートフォリオ・システム manaba を導入することで、それに対応することが可能になった。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成 25 年度の短期語学研修に参加する学生を皮切りに、秋からは1年間留学する学生に本格的にサポートを開始する。平成 25 年度末に実施する春季短期留学に参加する学生には留学前から留学中にかけて、初期の教育効果が出るように、留学前のリサーチ発信プロジェクトの指導を開始する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

平成25年度夏の短期語学研修に参加した4人の学生(英国3人、米国1人、メキシコ1人)には留学前にテーマ設定や調査方法に関するグループ研修を行った。留学中は manaba を利用して報告を受けながら適宜アドバイスを送った。また manaba のコミュニティ機能を利用して、学生は留学先から現地情報の発信をした。

帰国後、出発前に決めたリサーチ・トピックに関するレポートを manaba 上に提出させた。なお、学生が選んだトピックは、「Music culture in the UK」、「British Transportation」「Differences in common sense between Japan and England」、「アメリカの文房具事情」、「メキシコ人と日本人:それぞれにとって『魅力的な人』に違いはあるのか」など、留学中の生活で情報収集しやすいものであった。

平成 25 年度秋から出発した年間留学生 4 人(米国 2 人、メキシコ 1 人、スペイン 1 人)も 留学中リサーチ発信プロジェクトに登録し、毎月状況報告を送りながら、出発前に設定したテーマに沿ったリサーチを行っている。「Japanese Americans during World War II」、「メキシコの遺跡」といった大学生の研究にふさわしいテーマを選び着実に資料集めをしているという経過報告が届いている。これらの報告は manaba のコミュニティ上で行われ、登録をしなかった学生を含めて世界中から留学先の情報が本学の学生に発信されている。日本にいながらにして、留学先の学生の体験を共有できるので、コミュニティの登録者も 100 人以上となり、まさにバーチャルなグローバルキャンパスとなっている。

この manaba を利用してのやりとりの唯一の弱点は、インターネット環境が整っていない状況下になると、やりとりがストップしてしまうことである。移動中の学生との連絡方法については

改善の余地がある。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

本事業では留学中「リサーチ発信プログラム」がグローバル人材プログラムの修了要件になっているが、manaba を利用することによって、県立大学にいる教員が留学中の学生を効果的にサポート、指導することができるようになった。また留学前の学生は、他の学生の留学中のレポートの閲覧ができるため、留学前のアドバイジングとしても有効であり、効果は十分に上がっている。

②改善すべきこと

manaba 自体への周知が徹底していないため、平成 25 年度の参加者はまだ少ない。学生の参加者を拡大すると同時に、iCoToBa 教員が協力して、指導にあたる必要がある。

5. 平成 26 年度に向けての方策

平成 26 年度後期に帰国する学生が、留学後のプログラムをスタートすると、留学前から留学後までの発展的教育課程を一通り経験することになり、その効果を検証することができる。すでにこの春出発する年間留学生には、報告やリサーチ・レポートも最終的には留学先の言語で行うよう指導しており、26 年度からは外国人教員にも manaba 上でのやりとりに参加してもらい、サポート体制を充実させる。また授業時間を工夫して、より多くの学生が「留学前リサーチ発信プロジェクト」を受講できるようにし、26 年度秋の出発時には留学者の過半数がこのサポート体制下に入れるようにしたい。

7-4. 国際交流室による留学支援

1. 概要

本事業では、留学を学士課程の一環として位置づけ、グローバル人材を育成することを目的としている。そのため、留学支援体制を国際交流室とiCoToBa で強化したいと考えている。特に国際交流室では、協定大学への留学を増やすために、①学内での募集体制のシステム化による留学前の充実した情報提供、②留学中の支援体制整備、③学術交流協定大学の拡充、④夏期・春期ショートプログラムの充実を図ってきた。

国際交流室では、外国の大学等へ留学する学生と留学生に対する修学上及び生活上の支援に関する業務を行っている。留学に関する書籍や雑誌類と合わせて、学術交流協定大学のプログラム案内冊子を揃えている。また、海外留学のための奨学金情報は、学内の電子掲示板や国際交流室の閲覧用ファイルを通じて学生に周知している。

年に2回、留学説明会や留学フェアを開催し、奨学金や協定大学留学などに関する情報を、 留学を希望する学生に提供している。また、帰国後の単位認定に関する手続きについて説明 している。さらに、危機管理オリエンテーションを実施し、海外での危険に対する学生の意識を 高めた。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

国際交流室が平成 23 年 10 月に設置され、平成 24 年度は室の体制づくりを目標とした。 平成 25 年度は、すべての協定大学に関する情報を、留学を希望する学生にとって把握し やすくするようにすること、留学希望者の募集体制のシステム化を図ること、さらに、留学中の 教育の成果を記録・蓄積するために、学生が留学前からインターネットポートフォリオを使える ようにすることを目標とした。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

平成 24 年度は、室の体制の基礎ができ、平成 25 年度は国際交流室の機能、役割は拡大した。まず留学支援体制に関して iCoToBa と留学アドバイジング業務の分担を進めた。前者では留学を学修、教育の観点からアドバイジンズを行うのに対し、国際交流室は、留学を決定する際の留学先やリスク管理などの具体的情報を提供する。また年 2 回、学内で留学説明会や複数の大学の情報が得られるような留学フェアを開催し、留学経験のある学生による留学報告会を開催し、学生同士の情報交換の場を設定することで、留学を希望する学生に協定大学に関する情報を提供できた。さらに国際交流室は、学術交流協定校の交換あるいは派遣留学に関して募集期間や選考日程を提示し、学内での募集体制のシステム化を確立した。また危機管理オリエンテーションを実施し、海外での危険に対する学生の意識を高めた。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

国際交流室の体制が整備されたことにより、留学フェア、留学先に関する情報の提供体制を整え、学内での募集体制システムが確立した。また、これまで手薄であった危機管理オリエンテーションの実施を行ったことは、大きく評価できる。

また、平成25年度より、国際交流室は、留学中の学生に対しmanabaを使い、毎月連絡を取ることが可能になった。これにより、学生の在籍確認とあわせて、授業に対する感想や困っていることなど、生活状況の把握が可能になり、適切なアドバイスを与えることが可能になった。

②改善すべきこと

留学に関する情報共有に関して、学内国際交流室と学内学部レベルの留学部会との間で 十分できていない場合がある。

また、学生の manaba 利用者はまだ少なく、国際交流室との情報連絡、共有の目的から見ると、留学生の連絡方法の確立は、平成26年度以降の大きな課題である。

5. 平成 26 年度に向けての方策

留学前の充実した情報提供を実現するために、留学経験に関するデータを蓄積する。また、 国際交流室とiCoToBa が連携し、留学カウンセリング体制をより効果的なものとする。

7-5. 留学中のリスク管理

1. 概要

多くの学生を海外に留学させるにあたり、大学の留学生のリスク管理が重要となる。そこで、 平成 25 年度から、a)学生の留学に対する危機管理意識の醸成、b)留学中のサポートの充実、c)学内危機管理体制の構築・強化、の 3 点を目的に、留学リスク管理を強化した。そのために学生への留学前危機管理ガイダンスの実施、留学中の不慮の事故等への対応体制および学内における危機管理要綱およびマニュアルの整備を行った。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成25年度の目標を以下のように定めた。

- a) 留学に対する危機意識の醸成を目的に、学生への危機管理ガイダンスを開催する。
- b) 留学中の不慮の事故や病気、ケガなどに対するサポートの充実を図る。
- c) 留学中の不慮の事故等に備えて、関連の要綱および対応マニュアルを整備し、学内の リスク管理体制を構築する。さらに担当教職員を対象に、リスクに対する説明会を開催し、 学内で情報共有を図る。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①危機管理ガイダンスの開催

平成 25 年度夏休み留学予定の学生対象に7月、春休み留学予定の学生対象に平成 26 年1月にそれぞれ危機管理ガイダンスを実施した。これにより留学中の危機管理、危険情報および緊急時の対応等に係る情報を提供し、学生の危機管理意識の向上に努めた。

②留学中サポートの充実

愛知県公立大学法人は平成 25 年4月に日本アイラック社の「アイラック安心サポートデスク」に加入し、8 月から留学中の学生が事故や病気、ケガ等、不慮の事態に遭遇した際に、迅速かつ適切なサポートを行えるよう環境を整備した(加入状況詳細は pp. 59-60、表 21 参照)

③「愛知県公立大学法人危機管理推進要綱」の制定

愛知県公立大学法人は「愛知県公立大学法人危機管理推進要綱」を定め、本法人における危機管理体制および対処策等を定めた。また教職員に対して、留学中に起こり得る学生の危機、対処法について説明会を行い、情報の共有を図った。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

学生の留学に向けての危機管理意識が向上し、さらに留学中のサポート体制を構築したことにより、学生が安心して留学に臨めるようになった。

②改善すべきこと

派遣する学生の支援体制は整備できたが、受入れ留学生の危機管理については、協定大学との連携が必要になることから、今後学内で調整していく予定である。

5. 平成 26 年に向けての方策

さらに留学を行う学生が増加する見込みであることから、引き続き留学を行う学生に対して危機管理ガイダンスを行い、意識を向上させるとともに、学内の教職員においても学生の留学中の危機管理について情報を共有する。

【表 21 アイラック安心サポートデスク加入状況】

留学プログラム(開催都市)	人数	期 間
ラスアメリカス大学交換留学(プエブラ)	2	2013年8月4日~2014年3月31日
ケルン大学サマープログラム(ケルン)	1	2013年8月1日~2013年8月25日
セントラルランカシャー大学サマープログラム (セントラルランカシャー)	8	2013年8月7日~2013年9月6日
ポートランド州立大学サマープログラム (ポートランド)	7	2013年8月22日~2013年9月21日
アリゾナ州立大学サマープログラム(テンピ)	3	2013年8月17日~2013年9月30日
シベリア連邦大学交換留学 (クラスノヤルスク)	1	2013年8月18日~2014年3月31日
シベリア連邦大学交換留学 (クラスノヤルスク)	1	2013年8月18日~2014年2月17日
ラスアメリカス大学サマープログラム (プエブラ)	1	2013年8月10日~2013年9月9日
サンティアゴ・デ・コンポステーラ大学 サマープログラム(コルーニャ)	6	2013年8月22日~2013年9月21日
リール第三大学交換留学(リール)	2	2013年9月1日~2014年3月31日
アリカンテ大学交換留学(アリカンテ)	1	2013年9月2日~2014年3月31日

ケルン大学交換留学(ケルン)	3	2013年8月30日~2014年3月31日
ライプツィヒ大学交換留学(ライプツィヒ)	3	2013年9月9日~2014年3月31日
清州大学交換留学(清州)	1	2013年8月28日~2014年3月31日
ガジャマダ大学日本語教育実習 (ジョグジャカルタ)	10	2013年9月7日~2013年9月22日
シベリア Summer short visit (クラスノヤルスク)	4	2013年8月18日~2013年9月24日
アリゾナ州立大学春期研修 (テンピ)	3	2014年2月4日~2014年3月5日
ラスアメリカス大学サマープログラム (プエブラ)	11	2014年2月15日~2014年3月17日
ニューヨーク州立大学フレドニア校 スプリングプログラム(ニューヨーク)	8	2014年3月4日~2014年3月26日
サンパウロ大学交換留学(サンパウロ)	4	2014年2月10日~2014年3月31日
湖南大学交換留学(長沙)	2	2014年2月23日~2014年3月31日
四川師範大学交換留学(成都)	2	2014年2月20日~2014年3月31日
南京師範大学交換留学(南京)	3	2014年2月17日~2014年3月31日

8. 学術交流協定大学留学生対象プログラム

1. 概要

グローバル人材育成推進事業では、留学前から留学後の各段階で必要な能力を養成する体系的なプログラムを実施するために、平成25年4月にiCoToBaを開設、あわせて「グローバル人材プログラム」を開始した。これで本学における教育の基盤は作られたが、学生の留学促進、特に単位認定を伴った留学ができる環境を整備するために海外学術交流協定大学(以下、協定大学)を拡充することが不可欠である。協定締結を目指すためには、留学生対象プログラムを整備するなど、受け入れ態勢を整える必要がある。

以上の課題を解決するために、グローバル人材育成推進室では、平成24年度に協定大学からの特別聴講学生(以下、交換留学生)受け入れプログラムの素案を作成し、国際交流推進委員会に提案した。平成25年度は、本学全体の国際交流に関する事項の意思決定をつかさどる国際交流推進委員会がこれを引き継ぎ、同委員会の下部組織である「日本語受入プログラムワーキンググループ」がプログラムを策定、平成26年2月にプログラムを構成する科目が全学で承認された。こののち、「学術交流協定大学留学生プログラム」の認定は、教育支援センターが設置する小委員会で行われる予定である。以上の手続きを経て、平成26年10月より、「学術交流協定大学留学生プログラム(以下、協定大学プログラム)」が開始される運びとなった。

交換留学生の受け入れが一般的に半年から 1 年であることから、協定大学プログラムは半期 (15 週間) でひとつのレベルを終えるように設計した。また、協定大学プログラムの策定に加えて、平成 25 年度は短期間の受け入れプログラム開発も行い、平成25 年 7 月から 8 月にかけて、協定大学のひとつであるロシアのシベリア連邦大学のサマープログラムを実施した。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成24年度は、協定大学交渉の際に求められる本学側の教育体制やプログラム内容について情報収集を行い、ニーズに合った科目の設置と協定大学プログラムの策定を目指す。平成25年度は、プログラムに必要な科目について学内関係部署と調整を行い、プログラムを修正した上で、本学の正式な協定大学プログラムとして承認を得る。

加えて、本学の受け入れ態勢の整備について、多言語による説明文書を作成し、本学の協定大学に知らせるとともに、新規協定大学開拓に活用する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①学術交流協定大学留学生プログラムの整備

平成25年5月に第1回日本語受入プログラムワーキンググループ(以下、受入WG)の会

合が開催された。構成委員は、人見明宏(入試・学生支援センター長)、吉川雅博(国際交流室長)、桑村昭(国際交流室員)、東弘子(外国語学部国際交流推進委員)、福沢将樹(日本文化学部国際交流推進委員)、宮谷敦美(グローバル人材育成推進室、プログラム原案作成)、大山守雄(iCoToBa 留学アドバイザー)の7名である。

受入 WG では、平成 24 年度に作成した原案を吟味し、受入プログラムの枠組みを確認した上で、基本的な方針を決定した。方針は以下のとおりである。

- a) 日本語や日本学の専攻を持たない欧米圏の大学の学生であってもある程度の日本語能力を有していれば受け入れることができるように、初中級レベルからコースを設定する。
- b) 日本語能力の養成だけでなく、日本文化・社会や専門知識を深めることができるプログラムにする。
- c) 年間 20 単位以上を取得できるようにする。 (留学生の授業時間の目安が週当たり 10 コマ前後であるため)
- d) 日本語能力が低い学生にとって、留学の目的が語学習得だけにならないよう、英語で開講される科目を設置する。
- e) 本学の学生と共に学ぶ授業を設定し、互いの異文化理解を深められるようにする。
- f) 座学だけでなく、ワークショップやプロジェクトワーク型の授業を取り入れる。

以上の方針に基づきプログラムを策定した。クラスは、初中級、中級、中上級、上級の 4 レベルを設定した。初中級レベルの留学が見込まれる欧米圏の大学では、10 月から学年歴が始まる場合が多いため、初中級レベルは、後期のみの開講にした。

設定レベルの目安は以下のとおりである。

- ・初中級レベル:日本語能力検定試験(JLPT)N5 合格相当、N4 合格を目指す
- ・中級レベル:日本語能力検定試験(JLPT)N4 合格相当、N3 合格を目指す
- ・中上級レベル:日本語能力検定試験(JLPT)N3 合格相当、N2 合格を目指す
- ・上級レベル: 日本語能力検定試験(JLPT) N2 合格相当、N1 合格を目指す

【表 22 初中級レベル科目一覧】

科目群	科目名	週当たり授業数	単位	取得
作 日 杆	件日名	(1コマ 90 分)	半位	単位
口士宝。	総合日本語I	4	1	4
日本語・ 異文化理解	日本語実践 A	1	1	1
科目	トピックディスカッション A/B	1	1	1
17 1	Discover Japan ^{**}	1	1	1
教養科目群	指定された科目から選択	2	2	4

iCoToBa	日本文化紹介	1コマ	_	_
開講科目	比較文化論	1コマ	_	_

※は英語による授業である。

上記に加えて、日本語教育実習生によるコミュニケーション実習が週2コマ開講される。

【表 23 中級レベル科目一覧】

科目群	科目名	週当たり授業数	単位	取得
		(1コマ 90 分)	+14	単位
	総合日本語Ⅱ	4	1	4
口士芸	日本語実践 A/B	1	1	1
日本語· 異文化理解	語彙·漢字 A/B	1	1	1
# 关化连牌 科目	トピックディスカッション A/B	1	2	2
17 1	プロジェクトワーク A /B	2	2	4
	フィールド演習 A /B	1	1	1
教養科目群	指定された科目から選択	2以上	2	4

【表 24 中上級レベル科目一覧】

利日野	科目名	週当たり授業数	光件	取得
科目群	件日名	(1コマ 90 分)	単位	単位
	総合日本語Ⅲ	3	1	3
n 4-3-	日本語文章表現	2	1	2
日本語・	語彙·漢字 A/B	1	1	1
異文化理解	トピックディスカッション A/B	1	2	2
科目	プロジェクトワーク A /B	2	2	4
	フィールド演習 A /B	1	1	1
教養科目群	指定された科目から選択	1以上	2	2
学部 専門科目群	留学生開放科目群から選択	1以上	2	2

【表 25 上級レベル科目一覧】

科目群	科目名	週当たり授業数	単位	取得
作日研	件日名	(1コマ 90 分)	半位	単位
	日本語 I (教養教育科目)	2	1	2
日本語•	日本語Ⅱ(教養教育科目)	2	1	2
異文化理解	語彙·漢字 A/B	1	1	1
科目	プロジェクトワーク A /B	2コマ	2	4
	フィールド演習 A /B	1コマ	1	1
教養科目群	指定された科目から選択	2コマ以上	2	4
学部	留学生開放科目群から選択	1コマ以上	9	0
専門科目群	笛子生用双件日群かり選択	1コマ以上	2	2

[教養科目群]※は英語による授業である。

・日本の文化

・日本と異文化の交流※

・日本の社会

·Japan seen from outside*

・多文化社会とコミュニケーション

・英語連続セミナー※

・地域に学ぶ

・スポーツ実践演習

②シベリア連邦大学サマープログラム

平成 25 年 7 月 1 日 (月)から 8 月 11 日 (日)に、「シベリア連邦大学短期研修受け入れプログラムー現代日本社会と文化を学ぶー」を開催した。本学の短期特別受入プログラムの本格的な体制作りが大きな課題となっている中、モデルケースとしての役割を担うものであった。プログラムの概要は以下のとおりである。

日程:2013年7月1日(月)~8月11日(日) 6週間

受入学生:シベリア連邦大学文学言語学部日英学科10名(3年生8名、2年生2名)

引率スタッフ:シベリア連邦大学日本センター職員1名 講師:米勢治子、中道一世、黒野敦子(本学非常勤講師) プログラム実施教員:東弘子(実施責任者、国際関係学科)

半谷史郎(国際関係学科)

オブザーバー:加藤史朗(本学名誉教授) プログラム参加料金:11 万円(宿舎料を含む)



[ゆかた着付け体験]

プログラムは、40 コマ(60 時間)の日本語授業で、4つのプロジェクト(①日本人学生とのディスカッションに基づく文集の作成、②京都旅行の計画と「しおり」の作成、③留学中の学習や生活についてインターネット・ポートフォリオに記録する、④ オープンキャンパスにおける発表プ

ロジェクト)に取り組んだ。また、本学の通常授業に参加し、本学の学生と交流した。

以上のプロジェクト型プログラムについて、当初学生からは、「各授業・単元ごとに文法項目や学ぶべき語彙を提示してほしい」といった意見も出された。しかし、現代日本に身を置きながら、日本語の授業での課題はすべて、現実世界に通じる目的を持って使うという本プログラムのでの学習実践の体験は、学生の語学学習のモチベーションと能力を格段に高めることにつながった。修了式のスピーチは、全員が堂々と自分の言葉で自らの経験と意見を語り、この留学成果に学生たちが自信を獲得したことをうかがわせた。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

交換留学生受入プログラムの整備により、平成 24 年度から 25 年度にかけて、海外大学との協定交渉をスムーズに進めることができた。あわせて、外国語学部教員の協力もあり、英語、スペイン語によるプログラム説明資料を作成することにより、本学のグローバル人材育成推進事業のコンセプトをより詳しく伝えることができた。以上の取り組みの効果として、平成 25 年度は新たに 6 大学との協定締結と、また平成 25 年 12 月現在、8 大学で協議を続けている。

シベリア連邦大学サマープログラムの実施により、4週間~6週間の短期プログラムの枠組みをつくることができた。また、実施体制に必要なスタッフや施設などの情報についても検討することができた。

②改善すべきこと

平成 26 年 10 月に新たに始まる「学術交流協定大学留学生プログラム」により、今後さらに交換留学生数の増加が予想される。プログラムの整備が完了したが、留学生の来日から始まる日本での生活支援、履修指導に関するシステムづくりはまだ十分とはいえない。来日時期は一般に留学生の学習意欲が最も高く、学習の動機づけのためにも来日から履修指導までのプロセスは彼らの留学成果を左右する重要な時期である。クラス決定のためのプレイスメントテストの実施方法や履修指導体制について、細部まで検討する必要がある。

5. 平成 26 年度に向けての方策

平成 26 年度は「学術交流協定大学留学生プログラム」の開始にむけ、受入手順などのマニュアルを完備すること、またプレイスメントテストや履修指導の教務体制構築を目指す。さらに、本年度課題となっていた課金制の「初級集中日本語プログラム」についても検討する。

9. インターンシップ

1. 概要

インターンシップの拡大やキャリア支援は、本事業においてグローバル人材育成の「出口」につながる重要な部分である。本学グローバル人材プログラムにおいては、留学後フォローアップ・プログラムとして位置づけ、主に地元の企業や自治体、NPO/NGO などと連携したインターシップを想定している。さらに、海外協定大学と連携した海外インターンシップや実践型研修などについても検討中である。

留学後のインターンシップは、学生が留学によって獲得した語学力を活かす場というより、(語学力を含めて)留学という経験を通じて身につけた「広義のコミュニケーション能力」「異文化適応力」「課題発見・解決力」といった能力や、「主体性」「協調性」「積極性」「責任感」といった態度・姿勢を、一層強化していく機会としてとらえている。

本学では、これまでインターンシップを経験する学生は極めて少数であったが、平成 25 年度に新たなインターンシップ先を開拓するとともに、今年度限りの措置として、正課科目の「インターンシップ」の認定条件を満たしていない場合であっても、一定の条件のもとで「グローバル人材プログラム認定インターンシップ」として評価し(正課科目としての単位認定はなし)、学生が積極的に社会と関わる機会を奨励した。平成 26 年度からスタートする新カリキュラムでは、学生がインターンシップに積極的にチャレンジできるよう、単位認定要件を緩和するなどの改革を行った。また、平成 26 年夏には、協定大学である英国イースト・アングリア大学の協力のもと、現地での社会実習を重視したジョイント・プログラムが実施されることが決まった。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

a) 留学後プログラムの一環としてのインターンシップ導入準備

平成 25 年夏までに留学帰国者に対するインターンシップのサポート体制を整備し、留学帰国者に対するフォローアップとしてのインターンシップを開始する。既存のインターンシップ(地元企業など)をさらに拡大し、自治体、NPO、公益団体など新たな実習先の開拓や留学経験を活かせる就業体験の機会などを準備する。

b) インターンシップからキャリア支援

愛知県から海外へ進出している企業や県内に拠点を持つ外国企業、観光産業、地方自治体、国際交流や国際協力事業を行っている NPO/NGO 等でのインターンシップを、学生のキャリア支援につなげ、国際社会や地域社会に貢献する人材育成のための指導体制を強化する。留学経験者のスムーズな就職決定のため、帰国後から新学期開始までのギャップ期間に指導を実施する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

平成24年度末から25年度末(平成26年1月)までのインターンシップ参加実績は以下のとおり、申請者(インターンシップに申込をした者)は55名、うち完了した者(実際に規定の時間以上の就業体験をし、最終レポートを提出して認定を受けた者)は35名であった。ただし、後者のうち15名は、今年度の特別措置として認められた「学内インターンシップ」によるものである。「学内インターンシップ」とは、大学が企画した様々なイベントや業務に、学生をスタッフとして参加させ、準備から運営までの経験をさせるものである。

【表 26 学内インターンシップ履修状況】

インターンシップ名	申請者	完了者
ワールド・コラボ・フェスタ 2013 における国際関係学科出展	11	8
県大プロモーション映像作品の制作プロジェクト(A: 撮影・編集)	2	N/A
県大プロモーション映像作品の制作プロジェクト(B: 字幕翻訳)	5	N/A
Immersion Program におけるプログラム・リーダー	9	4
国際シンポジウムにおけるインターンシップ	5	2
シベリア連邦大学短期受入留学プログラムにおけるインターンシップ	2	1
合計	34	15

【表 27 グローバル推奨インターンシップ履修状況】

インターンシップ名	申請者	完了者
アジア保健研修所	1	1
名古屋 NGO センター 愛県大グローバル人材プログラム用	1	0
広報ながくて「大学のひろば」学生記者	0	0
長久手市長秘書インターンシップ	0	0
中部経済連合会が主催する「産学フォーラム Next 30」の準備、運営	0	0
あいち地域づくり連携大学	0	0
愛知県国際交流協会国際交流モデル事業	0	0
愛知県国際交流協会日本語学習支援基金事業	1	1
愛知県国際交流協会多言語生活情報冊子の作成(愛知生活便利帳)	0	0
愛知県国際交流協会外国人相談・多文化ソーシャルワーカー事業	0	0
愛知県国際交流協会外国人向け防災・減災普及啓発事業(防災教室)	0	0
愛知県国際交流協会多文化共生センター運営	0	0
愛知県国際交流協会多文化共生関連イベント企画・実施	0	0
合計	3	2

【表 28 キャリア支援室インターンシップ履修状況】

インターンシップ名	申請	完了
タキヒョー	3	3
CBC	3	3
合計	6	6

【表 29 その他のインターンシップ履修状況】

インターンシップ名	申請	完了
いわて GINGA-NET(ボランティア))	5	5
海外ボランティア	4	4
その他	3	3
合計	12	12

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

従来、本学ではインターンシップに参加する学生はごく少数で、正課科目としての「インターンシップ」の単位認定者数は年間 10 名にも満たないほどであった。これには企業とのマッチングの困難さ、学外での事前研修会への参加義務など、単位認定のハードルが高かったことも関係しており、学生は「そこまで面倒なプロセスを経てまでインターンシップに参加する理由がない」と判断していたようである。

グローバル人材プログラムのスタートにともない、インターンシップは同プログラムの修了認定を受けるための必須要件となった。また、初年度にあたる平成25年度においては、「学内インターンシップ」や、本来は「ボランティア活動」に分類される活動に対しても一定の条件の下で「グローバル人材プログラム認定インターンシップ」として認めたこともあり、これまでに比べて関心を持つ学生が大幅に増えたと思われる。

量的な向上に加えて、質的にみても、インターンシップ終了後に提出させるレポートを見ると、ほとんどの学生が就業体験を通じて大きく成長してきたことがうかがえる。自分は何のために働きたいのか、どんな仕事をしたいのか、どんな能力や姿勢がまだ足りないか、そのために何をすべきか等、真剣に振り返っている学生が多く、5000 字を超すレポートを書いてくる学生もみられた(標準分量は2000字程度)。

グローバル人材プログラムによるインターンシップ導入は、まだ端緒についたばかりではあるが、より多くの本学学生がインターンシップに関心を示すようになり、キャリア形成について真剣に考えるようになった。またインターンシップ参加者の多くは、グローバル人材に求められる普遍的能力、とくに「課題発見・解決力」「広義のコミュニケーション能力」などとともに、「主体性」「協調性」「積極性」「責任感」といった、社会人としての姿勢・態度を身につけた。

②改善すべきこと

インターンシップ先を十分に確保できるかどうかという懸念もあり、初年度においては「学内インターンシップ」のような例外的ケースを認めたり、新たなインターンシップ先を大学が開拓するなど、やや「お膳立てしすぎ」のきらいもあった。もちろん、実習先への申込みやその後の折衝などは全て学生自身が行ったものであるが、学生自らが受入れ先を探すことから始めるのも重要であろう(そのような方法で自ら見つけてきた者も当然少なくない)。

また、インターンシップ先と大学側が連携を取りながら学生にフィードバックし、共同で人材を育てていく仕組みがまだできていない点は、「真の産学協同」を目指す観点からも、今後取り組むべき課題である。

なお、本学グローバル人材プログラムにおいては「インターンシップ」を「留学後のフォローアップ・プログラム」として位置づけているが、実際にインターンシップに参加した者には留学前の2、3年生もかなり多かった。当初想定していた流れから若干ずれてしまったが、他方、留学前の学生であってもインターンシップを体験すること自体が大きな成長につながることも明らかになった。今後は、キャリア支援につながるような「留学後インターンシップ」のあり方を検討し、実績をつくることが必要である。

5. 平成 26 年度に向けての方策

グローバル人材育成推進室とキャリア支援室が協力し、「ジョブ・カフェ(仮称)」等の機会を 設定して、学生が定期的に少人数でキャリア形成について考える取り組みを開始する予定で ある。

平成 26 年 8 月から 9 月にかけ、海外協定大学である英国イースト・アングリア大学とのジョイント・プログラム(社会実習型海外研修)を初めて実施し、将来グローバルに活躍する強い意思と能力のある人材を育てる(30 名参加予定)。

平成 26 年 11 月に愛知県で開催される「国連 ESD(持続可能な開発のための教育)の 10 年」世界会議の機会をとらえて、事務局担当自治体(愛知県、名古屋市)と連携し、特に留学経験者を中心に、インターンシップやボランティアの機会を設定する。

地元産業界との連携では、インターンシップ先の企業等が当該学生の活動を評価して大学 および学生にフィードバックし、大学と企業等が情報を共有しつつ、協同して学生のキャリア形 成を支援していく仕組みを整える。

海外留学中でもキャリアを意識できるように、海外開催の就職フェアなどの情報を留学中の 学生に提供する

以上の方策を着実に実行に移していくため、グローバル人材育成推進室とキャリア支援室 の情報共有と連携をさらに強化する。

10. 講演会・セミナー

1. 概要

「グローバル人材育成推進事業」の採択を受け、新たにスタートした本学は、関連するテーマで講演会・セミナーなど開催し、さまざまな本学の取り組みを学内外に情報を発信した。これらは、公立大学として地域社会・産業へ向けた本事業における取り組み内容の開示、本学学生の意識向上や情報共有の一助とも位置づけられる。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

愛知県立大学のグローバル人材育成推進事業の一環として開催したものは、①現代必要とされているグローバル人材とはなにか、を地域の産業界、教育界、大学生、高校生に対して広く公開した大規模な講演会や、②学内教員、本学学生さらには高大連携のからの高校生向けにおこなった小規模なセミナーやワークショップ、講座、プログラムであり、それらを通して、本学のグローバル人材事業に対する学内外の関心を高めることを目標とした。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

- ①講演会・セミナー
- a) 愛知県立大学グローバル人材育成推進事業キックオフセミナー

「グローバル人材の育成を考える」

(平成25年1月25日開催、於日本経済新聞社名古屋支社)

基調講演「グローバル化時代を生きるための力をどう育成できるかー世界と日本ー」

二宮 皓氏 (放送大学副学長)

報告「愛知県立大学における取り組みについて」

パネルディスカッション

赤木 紳一氏 (中部経済連合会)

駒田 邦男氏(トヨフジ海運株式会社取締役社長)

藤本 博氏 (南山大学外国語学部教授)

二宮 皓氏 (放送大学副学長)

小池 康弘 (本学外国語学部教授)

文部科学省の「グローバル人材育成推進事業」に採択されたことを受け、本学の取り組みを広く社会に発信するとともに、グローバル人材の育成について、経済界、教育機関の立場から幅広く議論するための「キックオフセミナー」を開催した。



「キックオフセミナー風景、およびポスター」



b) グローバル人材育成推進事業講演会

「グローバル時代に生きるコミュニケーション能力育成について」

(平成 25 年 7 月 31 日開催、於本学 S 棟 101)

講演 ウィルソン・エイミー氏(山口県立大学国際文化学部教授)

山口県立大学ウィルソン・エイミー教授を講師に 迎えて講演会を開催した。教職員合わせて 50 人 以上が参加し、数々の教育 GP の獲得実績を持つ 山口県立大学の外国語教育、地域連携の取り組 みなど、さまざまな取り組みの紹介があった。

講演後は数多くの質問が寄せられ、積極的な意 見交換が行われた。



[ウィルソン先生の講演]

c) グローバルキャリアセミナーシリーズ(平成25年6月24日~平成26年2月5日) グローバルキャリアを目指す学生を対象に商社、外務省、国連などで活躍するゲストからセミナーや座談会形式で話を聞いた。シリーズ全体で30人以上の学生の参加があり、複数回出席するなど熱心な学生も多く、好評のうちに今年度のシリーズを終了した。

Series1「グローバル・ビジネスの世界で挑戦したい人のためのアドバイス」(6月24日) 平世 辰雄氏(三井物産株式会社中部支社業務部事業推進室長) 三井物産株式会社中部支社業務部事業推進室長・平世辰雄氏を招いて「グローバル・ビジネスの世界で挑戦したい人のためのアドバイス」を開催した。グローバルな環境での活躍を目指す学生より、熱心な質問が多く寄せられた。

Series2「外務省で働きたい人のためのアドバイス:その仕事内容および試験対策」

(7月1日)

古谷 徳郎氏(外務省儀典官室儀典総括官)

外務省儀典官室儀典総括官・古谷徳郎氏を招き「外務省で働きたい人のためのアドバイス: その仕事内容および試験対策」を開催した。外務省の現役職員からアドバイスを受けることができたいへん役に立ったと、多くの参加学生に好評であった。

Series3 座談会「『外務省で働く』という選択」(12月 20日) 村井 牧子氏(外務省総合外交政策局国際科学協力室課長補佐)

現役外務省職員・村井牧子氏をスピーカーとして招いてセミナーを開催した。大学時代に何を学び、どんな経験をすべきか、外務省に入る方法、職場の特徴、外交官という仕事の面白さと大変さなど、結婚、出産、育児と仕事を両立しているゲストご自身の体験談も交えてお話をきいた。



[12月20日のセミナー風景]

Series4 座談会「『国連で働く』『平和のために働く』そのために知っておいてほしいこと」 (2月5日)

羽田 由紀子氏(元・国連ニューヨーク本部広報補佐官、 国連難民高等弁務官事務所(UNHCR)広報官)

元国連職員・羽田由紀子氏をスピーカーとして招いて、「国連で働く」「平和のために働く」そのために知っておいてほしいことと題した座談会を開催した。国連の日本人職員の数はまだまだ少なく、実はチャンスはある、普通の会社に就職するのとは違うことなど、学生にとっては有意義な話を聞く機会となった。



[2月5日のセミナー風景]

d) 県大ドイツデー「ドイツでドイツ語を学ぶ 世界を知る」

(平成 25 年 11 月 13 日開催、於 iCoToBa)

「交換留学とドイツの大学生活をめぐって」

Dr. Ingo Karsten (大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事) 「海外留学中の学生生活について」

Dr.Holger Finken(ドイツ学術交流会東京事務所) 本学学生による留学報告

大阪・神戸ドイツ連邦共和国総領事館総領事の講演をは じめ、DAAD(ドイツ学術交流会)の現地情報・奨学金情報、 ドイツ留学した県大生の体験談など、今後ドイツ留学を考え ている学生にとって貴重な情報提供がなされた。また、ドイ ツの協定大学に留学したヨーロッパ学科ドイツ語圏専攻の 学生による留学報告では、留学のアドバイスなど学生の立 場にたった意見が述べられた。ドイツ留学を検討している学 生をはじめ 50 人以上が参加し、懇親会も含め盛況のうちに 終了した。



[ドイツデーのポスター]



[ドイツデー懇親会集合写真]



[Ingo Karsten 氏の講演風景]

e) 愛知県立大学グローバル人材育成推進事業セミナー 「グローバル人材に求められる外国語能力を考える」

(平成 25 年 12 月 21 日開催、於本学講堂)

基調講演「グローバル時代の人間形成と外国語学習」 當作 靖彦氏(カリフォルニア大学サンディエゴ校教授) パネルディスカッション「徹底討論! 『Ver3.0 のグローバル社会に追いつく』」

司会:中西 千香(本学外国語学部准教授)

太田 光春氏(文部科学省初等中等教育局視学官)

エドガー・ライト・ポープ(本学外国語学部教授)

寺本 美波(本学 外国語学部英米学科学生)

小原 章江(本学 外国語学部中国学科学生)

坂井 咲妃(本学 外国語学部中国学科学生)

佐藤 遥(本学 外国語学部国際関係学科学生)

第1部の當作靖彦氏による基調講演「グローバル時代の人間形成と外国語学習」ではグローバル化した社会における言語の役割と外国語学習の意義、およびインターネットの重要性について具体的な事例に基づき説明があり、これから大学生がどのように学んでいくべきか非常に示唆に富むアドバイスがなされた。

第2部は、本学中西教員の司会進行で、當作氏、太田氏、本学ポープ教員と外国語学部の学生 4 人によるパネルディスカッションが行われ、グローバル人材とはどのような人材なのか、また、大学生は、卒業し社会に出るまでに、何を学び身につけるべきかについて、刺激的な討論を行った。教育関係者の来場も多く、570人の参加者があった。



[セミナーのポスター]



[セミナー「グローバル人材に求められる外国語能力を考える」風景]

②グローバル関連講座

a) Immersion Program (平成 25 年 8 月 11 日~12 日)

8月11日(日)~12日(月)、岡崎市の愛知県青年の家において、外国語だけで生活することで、その言語能力を高めることを目的とする Immersion Program 合宿が催された。今回が初めてということで、英語と中国語の 2 ヶ国語のプログラムが用意された。本学の学生の 16 人に加えて、英語プログラムには県内の高校生 12 人が参加した。3 人の iCoToBa 教員の指導のもと、9 人のインターン学生がプログラムを企画・準備した。また、本学教員および大学院留学生による媒介言語を用いない直接法によるインドネシア語、中国語、スペイン語の入門講座もあり、参加者は語学学習の楽しさを体験した。

初日はアイスブレーキングのあと、5 グループに分かれて寸劇を作り、夜のタレントショーで発表しあった。自由時間も英語のゲームをしたり、夜遅くまで話に花が咲き、翌朝は眠い目をこする参加者も出た。英語のラジオ体操でスタートした2日目はクイズ発表会と、キング牧師の"I have a dream"という有名な演説を勉強したあとに、それぞれの夢を Speakers' Cornerで発表し合った。参加者にとって外国語漬けの生活は新鮮だったようで、「語学学習がこんなに楽しいとは知らなかった」「疲れたけど、短期間でも集中すれば、語学力は上がると実感できた」といった声が寄せられた。ぜひ来年も開催をしてほしいというアンケート結果に、関係者全員が笑顔で夏休みを迎えることができた。





[Immersion Program 風景]

b) TOEIC&キャリア研修(平成 26 年 2 月 13 日~3 月 13 日)

グローバル人材育成推進室と学生支援課キャリア支援室が協働し、「TOEIC&キャリア研修」を開催した。対象は、2014年度の卒業を目指している外国語学部学生である。2014年3月の第188回TOEIC試験受験が受講条件にあげ、目標を定め学習に取り組むように学生に促した。講座は、6回のキャリア研修と9回のTOEIC研修からなる。就職活動中の学生の参加しやすさを考慮し、名古屋駅前のサテライトキャンパスで開講した。

キャリア研修は、就職活動で学生が体験する面接やグループディスカッションで即座に反応し自分を表現する「瞬発力」の重要性を認識させるワークと、2013年度卒業予定の学生との

コミュニケーションワーク、本学外国語学部を卒業し現在グローバルな職場で働く先輩とのディスカッションなどからなる。

TOEIC 研修は、試験直前対策として、即戦力につながるアドバイスやストラテジーを授業に盛り込むことを重視し、①語彙力の強化・リスニング力の強化、②問題分析および傾向把握、③ミニ模擬試験を行った。講座期間中はmanabaも活用し、受講者の学習状況の把握と、個別アドバイスができる体制も整えた。

本研修は、キャリア支援室との協働によるはじめての取り組みであり、卒業生や卒業見込みの学生の経験談を聞く機会を取り入れる新しいタイプの教育プロジェクトである。研修終了時の受講者アンケートを行い、担当者によるふりかえりをもとに、2014年度は、さらに改良した形式で実施する予定である。

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

昨年1月開催のキックオフセミナー『グローバル人材の育成を考える』や 12 月開催の『グローバル人材に求められる外国語能力を考える』セミナーなど、本学におけるグローバル人材育成推進事業の取組を広く学内外に知らしめるセミナーのみならず、高大連携を意識したImmersion Program や学生への留学・グローバルキャリアの動機づけとなるイベント・セミナーの実施など多角的な試みが功を奏した形となっている。

②改善すべきこと

グローバルキャリアセミナーシリーズなど、学生への周知を計画的に行うことにより、より多くの学生の参加を見込めたと思われる。

5. 平成 26 年度に向けての方策

平成 25 年度の講演会、セミナー等の多くの目的は、グローバル人材とは何かを中心に啓蒙的なものが多かったが、今後、本事業の成果の蓄積も進むことが期待されることから、本事業の成果を発信するものも多く開催したい。本学グローバル人材プログラム履修過程あるいは修了者の留学報告会や、県内高等学校との高大連携事業の一環として、「あいちスーパーイングリッシュハイスクール」との連携の可能性もさぐっていく。

11. 情報発信

1. 概要

本学の「グローバル人材育成推進事業」に関する情報を広く発信するために、専用のホームページの開設とともにパンフレット等の印刷物を作成した。また、本事業関連会議等に参加し、他大学と取り組みに関する情報交換を行い、本学の取り組みに反映させた。また、大学広報のために大学進学セミナーや高等学校でのガイダンスも実施した。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

平成 24 年 10 月本事業の開始と内容を示すパンフレット等の印刷物を作成するとともに、多言語学習センターiCoToBa、および「グローバル人材育成推進事業」の HP を立ち上げる。また、平成 24 年から 25 年にかけて、グローバル人材育成推進事業の全国およびブロック会議へは積極的に出席し、他大学と取り組みに関する情報交換を行い、本学の情報発信方法を考える際の参考にする。

加えて、グローバル人材育成推進室員を中心に本学の教員が、高等学校へのガイダンスを 行う。iCoToBa における教育実践を発表するために研究会に参加する。

その他、各種マスコミに情報を提供する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①ホームページの開設とパンフレットの作成

a) ホームページの開設

平成 25 年 4 月に iCoToBa のホームページを開設し、授業の開講情報、行事予定および報告、各種募集内容など、定期的に最新情報を発信している。iCoToBa スタッフブログでは、外国人教員からのコメントを随時掲載し、Students' Voice では本施設を頻繁に利用する学生に原稿を依頼し、学生の立場に立った情報発信も行っている。

グローバル人材育成推進事業のホームページは平成25年12月に開設した。本事業に関連する行事案内および報告の情報発信をしている。留学、インターネットポートフォリオ、外国語学習支援等、関連するサイトのリンクを貼り、閲覧者が求める情報を的確に提供している。

グローバル人材育成推進事業ホームページ URL http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/iCoToBa ホームページ URL http://www.for.aichi-pu.ac.jp/icotoba/

b) 広報用印刷物の作成

平成 24~25 年度に作成したパンフレット等印刷物の作成は以下のとおりである。

【表 30 平成 24 年度に作成した広報用印刷物一覧】

タイトル	言語	ページ数
グローバル人材育成推進事業 ~学士課程における発展的留学制度 を通したグローバル・キャリア育成プロジェクト~	日本語	4
Project for Promotion of Global Human Resource Development ~ A project for developing global careers through an expanded study abroad system in the undergraduate curriculum~	英語	4
2013年 愛知県立大学 グローバル人材育成プロジェクト始動!	日本語	2
グローバル人材プログラムはじまる!	日本語	14
iCoToBa 本 iCoToBa へようこそ!	日本語	26

【表 31 平成 25 年度に作成した広報用印刷物一覧】

タイトル	言語	ページ数
異文化を知ろう!世界にはばたこう!	日本語	2
全国枠の推薦入試スタート	日本語	2
グローバル人材育成推進事業 ~学士課程における発展的留学制度	n 	4
を通したグローバルキャリア育成プロジェクト~(平成 24 年度改訂版)	日本語	4
Project for Promotion of Global Human Resource Development		
~ A project for developing global careers through an expanded	英語	4
study abroad system in the undergraduate curriculum~(平成 24	大市	4
年度改訂版)		
グローバル人材プログラムでまなぶ!	日本語	14
Learn in Global Human Resource Development Program	英語	14
iCoToBa 本 iCoToBa へようこそ! (平成 24 年度改訂版)	日本語	26
iCoToBa Book	英語	26

②グローバル関連外部講演・実践発表

a) 岐阜新聞社・進学ガイダンス 平成 25 年 5 月 25 日

発表者: 広瀬恵子(英米学科教授)

本学外国語学部および、グローバル人材プログラムについて説明した。

b) Benesse 進学フェア 平成 25 年 6 月 15 日

「愛知県立大学グローバル人材プログラム いよいよ発進!」

発表者: 宮谷敦美(国際関係学科准教授)

「国際力」をテーマにした分科会での発表である。「グローバル人材プログラム」の内容と iCoToBa について紹介した。

c) 第12回 manaba セミナー 平成25年7月5日

「グローバル人材を育成するための「発展的留学制度」と manaba folio による入学~卒業までの学修支援 |

発表者:小池康弘(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻教授)

宮谷敦美(国際関係学科准教授)

グローバル人材育成推進事業における本学での manaba 導入事例を報告した。

d) 夢ナビライブ 2013 平成 25年7月20日 発表者:小池康弘(ヨーロッパ学科スペイン語圏専攻教授) グローバル人材プログラムについてライブ講義で紹介した。

e) JALT OLE SIG (Other Language Educators Special Interest Group)

平成 25 年 10 月 12 日

"Getting students to think and go Global at Aichi Prefectural University – an integrated approach"

発表者:Morten HUNKE (iCoToBa 准教授)

Fern EDEBOHLS (iCoToBa 講師)

Ming QU (iCoToBa 准教授)

宮谷敦美(国際関係学科教授)

iCoToBa における外国語教育の実践について報告した。

f) 神戸大学グローバル教育推進委員会 平成 25 年 11 月 11 日 「愛知県立大学グローバル人材育成推進室における e-Portfolio 導入の取り組み」 発表者:宮谷敦美(国際関係学科教授) インターネットポートフォリオの導入プロセスと留意点について、本学の事例を基に説明した。

g) 同志社大学・第1回西日本第1ブロック共同ワークショップ

グローバル」の普遍性について〜Global Competence in a Global Society with Special Reference to its Universality〜 平成 25 年 11 月 23 日

「学生が考えるグローバル人材とは」

発表者:フイジオ・サラ・ロンガット(英米学科3年) 第3部のパネルディスカッションに登壇し、自身の

経験に基づいた考えを発表した。

「パネリストとして登壇したロンガットさん]



③広報媒体による情報発信

- a) TOEIC Newsletter No.117 (2013年5月発行)
- b) 中日新聞 2013年7月4日(木)「愛知県立大で特別講義」
- c) 中日新聞 2013 年 11 月 12 日(火)「いまドキッ! 大学生 英語で学ぶスタイルへ」
- d) 朝日新聞 2014年1月12日(日)「第1回Go Global Japan Expo」

④高校生対象ガイダンス

平成25年度に近隣の高等学校で行った出張ガイダンス、模擬授業は以下のとおりである。

【表 32 平成 25 年度出張ガイダンス、模擬授業実施一覧】

学校名•学年	実施日	内容	参加者	担当
愛知県立旭野高等学校	C D D	在存货类	9.0	英米学科講師
2年生	6月3日	模擬授業	30	エレノア・ロビンソン
名城大学附属高等学校	6月24日	模擬授業	20	国際関係学科准教授
3年生	6月24日	快艇 坟来	30	福岡千珠
愛知県立小牧南高等学校	7月2日	基 版 版 来	26	中国学科教授
3年生	7月2日	模擬授業	20	吉池孝一
愛知県立国府高等学校	7月4日	模擬授業	40	スペイン語圏専攻教授
3年生	7月4日	快艇 坟未	40	堀田英夫
愛知県立津島高等学校	9月19日	模擬授業	10	フランス語圏専攻教授
2年生	9月19日	突厥汉未	19	中田晋自
岐阜県立岐山高等学校	10月21日	本 松心来	39	中国学科准教授
1年生	10月21日	模擬授業	39	川尻文彦
愛知県立刈谷北高等学校	10月24日	模擬授業	0.7	国際関係学科教授
2年生	10月24日	保)妖1又未	67	高橋慶治
愛知県立半田高等学校	10月24日	模擬授業	38	英米学科教授
2年生	10月24日	快艇 1文未	აი	大森裕實
愛知県立名古屋西高等学	10月24日	学部学科	20	ドイツ語圏専攻教授
校2年生	10月24日	説明	36	人見明宏
静岡市立高等学校	10月31日	学部学科	27	英米学科教授
2 年生	10月31日	説明 説明		宮浦国江
岐阜県立恵那高等学校	11月7日	模擬授業	38	スペイン語圏専攻教授
2 年生	11 万 1 日	(吳)舜1文 未	აგ	小池康弘
愛知県立瑞陵高等学校	11月13日	模擬授業	38	フランス語圏専攻准教授
2 年生	11 万 10 日		აგ	長沼圭一

岐阜県立多治見高等学校 2年生	11月14日	模擬授業	34	スペイン語圏専攻教授 田中敬一
名古屋市立桜台高等学校 2年生	12月12日	模擬授業	39	英米学科教授 中村不二夫

⑤iCoToBa 訪問者

【表 33 平成 25 年度 iCoToBa 訪問者一覧】

訪問者	訪問日	訪問者数
大村秀章愛知県知事	4月4日	5名
長谷川県民総務課長	6月5日	3名
North Texas 大学 学生	6月14日	9名
中部経済連合会関係者及び中日新聞記者	6月17日	7名
吉本明子愛知県副知事	8月8日	5名
一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	9月9日	3名
監察室人見室長	9月13日	3名
埼玉大学 教養学部教員	12月21日	2名
清林館高等学校校長	1月24日	1名
常葉大学 教員	2月3日	3名
第 11 回 NEXT30 産学フォーラム	2月6日	49名

【表 34 平成 25 年度 iCoToBa 訪問者一覧(高等学校)】

学校名	日時	訪問者数			
日兴九帝		計	内 訳		
見学内容		日日	生徒	教諭	PTA
岐阜県立可児高等学校3年生	4月25日(木)	46	4.4	0	0
	10:00~12:30	46 44	2	U	
Activity Space にて施設・機器・授業の	説明、Big Pad のデ	モンス	トレーシ	ョン(外	国語学
習に関して)、外国人教員との会話体験					
愛知県立岩倉総合高等学校1年生	4月26日(金)	46	40	2	0
爱加尔亚石启秘古同寺子仪1十生	9:30~12:30	46 40		۷	U
i Lounge にて施設・機器・授業の説明、外国人教員との会話体験、本学学生(留学経験					
者)との交流					

 静岡県立袋井高等学校 2 年生	5月17日(金)	44	42	2	0	
	10:30~12:00	44	42	2	U	
i Lounge にて施設・機器・授業の説明、	iPad のデモンストレ	ーショ	ンおよて	が体験()	・ ラゴン	
ディクテーション)、外国人教員との会話	体験					
此户旧立大说从阳古然兴长 DEM	5月22日(水)	0.0		0	0.1	
岐阜県立本巣松陽高等学校 PTA 	10:30~12:30	33	0	2	31	
Activity Space にて施設・機器・授業の	説明、Big Pad のデ	モンス	トレーシ	ョン(外	国語学	
習について)、外国人教員の紹介						
受知用力尽业方效兴热 9 年 4	5月31日(金)	41	0.0	0	0	
愛知県立尾北高等学校2年生	10:20~15:20		39	2	0	
i Lounge にて施設・機器・授業の説明、	iPad のデモンストレ	ーショ	ンおよて	が体験()	·ラゴン	
ディクテーション)、外国人教員との会話	体験					
· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	月 立 知 決 京 な 一	40	40	2	0	
愛知県立御津高等学校2年生	10:00~12:00	42	40			
i Lounge にて施設・機器・授業の説明、	iPad のデモンストレ	ーショ	ンおよて	が体験()	ジゴン	
ディクテーション)、外国人教員との会話	体験					
三重県立	9月6日(金)	40	40	2	0	
津西高等学校1年生	10:30~14:00	42	40			
i Lounge にて施設・機器・授業の説明、	iPad のデモンストレ	ーショ	ンおよて	が体験()	・ラゴン	
ディクテーション)、スクリーンにて海外科	番組視聴(BBC∕CN	IN 他) 、Self-	Study	Space	
にて e-Learning 体験(ロゼッタストーン))、外国人教員との会	話体懸	矣			
此自用 立 理迫言 然	9月12日(木)	20	38	1		
岐阜県立瑞浪高等学校2年生	9:30~11:00	39	38	1	0	
i Lounge にて施設・機器・授業の説明	•					
悉知具立图屹西主笑学坛 9 年 生	10月31日(木)	70	7.0	9	0	
愛知県立岡崎西高等学校2年生	10:30~14:00	79	76	3	0	
i Lounge にて施設・機器・授業の説明、	iPad によるデモンス	ベトレー	・ションま	よび体	験(ドラ	
ゴンディクテーション)、スクリーンにて	海外番組視聴(BB	C/C	NN 他)、Self-	Study	
Space にて e-Learning 体験(ロゼッタン	ストーン)外国人教員	との会	話体験、	本学学	生およ	
びドイツ人留学生との交流						
	合 計	408	359	18	31	
		•	•	•	•	

⑥その他

a) 「トビタテ!フォーチュンクッキー 留学バージョン」ミュージックビデオ出演 本学学生が出演しているミュージックビデオが「トビタテ!留学 JAPAN」ホームページで 紹介されている。 「トビタテ!留学 JAPAN」ホームページ URL http://www.mext.go.jp/ryugaku/

b) 広告

•大学新聞

2013 年 3 月 1 日(金) 広告記事「全国枠の推薦入試スタート」 2013 年 12 月 10 日(火)広告記事「全国枠の推薦入試スタート」

•交诵広告

2014年1月14日(火)~20日(月)名古屋駅コンコース内 大学入試センター試験を課す全国枠推薦入試に関するポスター広告

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

平成 25 年度に学外に対して行った多様な方法による積極的な情報発信は、本学の事業に関する関心を大きく高めた。特に、英語版の各種パンフレットは、海外大学との協定締結プロセスにおいて、本学の理解を促進させた。

②改善すべきこと

平成 25 年度にグローバル人材育成推進事業ホームページと、iCoToBa ホームページを 開設したが、英語版ホームページは未開設であり、早急な対応が必要である。

5. 平成 26 年度に向けての方策

上記で指摘したように、平成25年度の情報発信は、国内向け情報発信が中心であったが、 来年度からは計画的に海外向けの情報発信を行う。特に、グローバル人材育成推進事業ホームページと、iCoToBaホームページの英語版の作成を最重要課題として進める。

12. 入試制度の改革

1. 概要

大学における人材育成の「入口」にあたる入試においては、「グローバル人材候補者」の積極的リクルートという観点から、①高校(生)への入試広報の強化や高大連携事業、②新しい入試方式(推薦枠)の導入、③グローバル人材の育成を見据えた入学前指導、の3つを柱としている。①に関しては、平成 23 年度に実施した高大連携講座『ことば、文化、社会・・・外国を知る』が好評を得たことから、本学の教員が専門分野を高校生にわかりやすく講義することを通じて、より多くの高校生がグローバルな視野を持ち本学への入学に関心を持つように、グローバル人材育成推進事業の PR を意識して入試広報活動や模擬授業を行った。②に関しては、これまで愛知県内の高校に限って募集していた推薦入試(定員 23 人)に加えて、外国語学部で新たに全国枠のセンター試験利用型推薦入試(グローバル人材枠、定員 43 人)を導入した。③については、県内枠での推薦入試合格者を対象とする「入学前オリエンテーション」を 2 月中旬に実施し、英語力の向上や主体的で広い視野からの学修に取り組む動機づけを行った。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

a) 高校(生)向けの広報の拡充

公開講座、模擬授業、ガイダンス、高校訪問等、様々な手段により「グローバル人材育成プログラム」の存在や魅力を広く高校(生)に周知、アピールする。こうした活動を通じて、グローバルな視野を持った高校生に入学の動機づけを行い、グローバル人材に求められる基本的な能力(積極性や協調性、コミュニケーション力など)を有する入学者を増やす。

b) 入試制度改革の検討

グローバル人材の育成を見据え、新たな推薦入試(仮称「グローバル人材枠」)等の検討を開始し(平成24年度)、26年度入試から漸次実施する。そのための積極的な広報活動を展開する(平成25年度)。

c) 入学予定者に対する指導(留学への動機づけ)

推薦入試合格者等の入学予定者に対し、入学前の春休み期間に在学生向けに開講される 英語集中クラスに参加を促すことにより、英語力をさらに伸ばし、大学での学修や留学に対す る動機付けを行う。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績

①新たな推薦入試制度の導入、広報活動、募集結果

平成24年10月より、新しい推薦入試制度として「グローバル人材枠(仮称)」の検討を開始

し、同年 12 月にその概要について学内決定し、平成 25 年 1 月に概要を公表した(実施は平成 26 年度入試(平成 26 年 4 月入学者対象)から)。募集要項等の詳細については平成 25 年 7 月に公表し、以降、各地での入試説明会、オープン・キャンパス、高校での模擬授業、教職員による高校訪問(11 月~12 月にかけて愛知、岐阜、三重、静岡の 4 県、34 校を訪問)などの機会を使って広報を行った。また、平成 26 年 1 月 14 日から 1 月 20 日までの間、JR 名古屋駅コンコースに大判のポスターを掲示するなどして周知した。

新たに導入したのは、外国語学部における「大学入試センター試験を課す全国枠の推薦 入試(グローバル人材枠」で、その概要は以下のとおりである。

第一に、従来の推薦入試制度では「愛知県内の高校」のみを対象(定員 23 人)としているが、これと別枠で、全国どの高校からでも出願できる「全国枠」として設定した。

第二は、センター試験の受験を課しているものの、一般入試前期日程(5 教科 6 科目受験) とは異なり、3 教科 3 科目(英語、国語、地歴公民から1つ)の成績で判定することとしている。

第三は、愛知県内枠での推薦入試の「出願資格」において定めている「外国語(英語)の3 年次1学期まで(2期制の学校では3年次前期まで)の評定平均値が5段階評価で4.0以上」 という条件を課さなかった。すなわち、出身高校における成績を問わず出願できる。

第四は、将来グローバル人材として国際社会や地域社会に貢献したいとの強い意思を有する人物であることを推薦の条件としている。当然のことながら、志願者は志願理由書にその内容を具体的に記し、また留学経験、英語力(TOEICスコアなど)、ボランティア経験、課外活動など具体的事実を記載することでグローバル人材候補としての適性をアピールすることが求められる。

初年度においては、全国 32 道府県から 250 人の応募があり、45 人が合格した(データについては、pp.86-87 の表 35、表 36、表 37 を参照)。

②グローバル人材育成を見据えた、推薦入試合格者に対する入学前指導の実施

平成 26 年 2 月 18 日 (火) 10 時~15 時半まで、推薦入試合格者 (ただし県内枠のみ) に対する「入学前オリエンテーション」を実施した。これは初めての試みであり、合格者 23 人中、21 人が参加した(2 人は学校行事および病気のため欠席)。なお、全国枠推薦入試合格者に対しては、今回の実施結果をみて検討することとしている。

オリエンテーションでは、①教員(小池、宮谷)による講義「グローバル人材になるために」、②SA(Student Assistant)が企画するアイスブレイキング(Tips for campus life:有意義な大学生活のために)、③iCoToBa(多言語学習センター)のネイティブ教員 5 人と日本人教員 1 人が企画する"Presentation & Discussion"(英語で自分を語ろう)、④How to use iCoToBa(e-Learning 演習など)、⑤全員でのふりかえり、をもって構成し、最後に各自が入学までにどのようなことをやるかを全員の前で「宣言」し、閉会した。

【表 35 全国枠センター試験利用型推薦入試(グローバル人材枠、定員 43 名) 実施結果】

学科·専攻	外国語学部・平成 26 年度推薦入試(全国枠) 応募状況				
	募集定員	志願者数	志願者倍率	最終合格者数	
英米学科	12	105	8.8	12	
フランス語圏専攻	6	19	3.2	6	
スペイン語圏専攻	6	40	6.7	8	
ドイツ語圏専攻	6	28	4.7	7	
中国学科	6	12	2.0	5	
国際関係学科	7	46	6.6	7	
合 計	43	250	5.8	45	

【表 36 志願者(表 35)の出身道府県および人数】

志願者数	道府県名および人数(カッコ内は合格者内数)
10 人以上	愛知 82(22)、岐阜 45(5)、三重 36(5)、静岡 17(5)
2-01	兵庫 9(2)、滋賀 5(1)、徳島 5(0)、新潟 4(0)、和歌山 4(1)
3~9人	愛媛 4(0)、茨城 3(1)、石川 3(1)、長野 3(0)、岡山 3(0)
2 人	北海道、秋田、山梨(1)、京都(1)、大阪、鳥取、高知、熊本、宮崎
1人	宮城、埼玉、富山、福井、奈良、島根、広島、鹿児島、沖縄
(合格者なし)	呂城、埼玉、畠山、佃井、宗良、局恨、広局、庇冗局、仲碑
志願者なし	青森、岩手、山形、福島、群馬、栃木、千葉、東京、神奈川、山口
応願有なし 	香川、福岡、長崎、大分

【表 37 志願者に関する質的分析(主な特長など)】

○課外活動で顕著な活躍

津軽三味線全国大会優勝、ダンス選手権全国大会優勝、陸上競技全国大会準優勝、 東日本弓道大会女子団体戦優勝、国際的な合唱コンクールでグランプリ受賞 県大会ベスト 8 以上または全国大会出場経験者(多数)・・・・吹奏楽、オーケストラ、ギター・マンドリン、将棋、水泳、弓道(団体・個人)、バトントワリング、バドミントン、テニス(ダブルス)、女子柔道個人戦、空手、バレーボール、体操、ハンドボール、NHK全国高校放送コンテスト、全国高校ディベート大会、全国書道展、全国俳句・短歌コンクールなど) その他・・・・華道部、茶道部での活躍など日本文化に関する造詣

○リーダーシップ

生徒会長、生徒会役員・委員長、部活動での部長など

○高度な英語能力や国語力

英検準1級、TOEIC850点、GTEC690点以上、漢字検定2級など

○ユニークな活動や経歴

ペットボトルキャップ回収によるポリオワクチン購入資金集め、地域清掃活動や NPO 等でのボランティア活動(継続的に活動)、企業と連携して地元物産を通信販売する活動、通信制高校からの受験、海外留学経験(1年間)、自分自身で企画した海外研修など

4. 平成 24 年度/25 年度の評価

①効果が表れていること

新たに導入された外国語学部の「全国枠センター試験利用型推薦入試(グローバル人材枠、 定員 43人)」に関しては、11月初旬の段階で愛知県内の高校でもよく知られていないという実 態が報告された。このため 11月から広報活動を一層強化し、その結果、最終的には全国 32 道府県から 250人の応募があり、初年度としては一定の効果があった。

全国枠での推薦入試制度の新設の狙いは、全国から多様な人材を本学に集めることにある。 本学在学生の 70%が愛知県内出身者という状況で全国を対象に、グローバル人材を目指す 意思と能力を持つ生徒に推薦の枠を広げることで、学生構成が「多様化」することは、結果とし て県内出身の学生にとっても大きな刺激となるであろう。この制度によってグローバル人材とし ての潜在性を有しながら従来の入試制度ではすくいとれないユニークな能力を有する生徒に 門戸を広げることになった。

「入学前オリエンテーション」に関しては、今回は県内枠推薦入試合格者のみを対象に、初めて実施した。この行事の目的は、12月に合格が確定した生徒たちが「中だるみ」することなく、高いモチベーションを維持して高校時代最後の勉学に励むことを促すことにあり、ここでは、グローバル人材とは何か、幅広い視点から教養を身につけることがなぜ大切かなど、「学ぶことの意味」を伝えた。生徒たちは「知識」と「態度・姿勢」の両面から、外国語学部生として何が必要か考え、自分自身が取り組むべき課題を発見することになった。

②改善すべきこと

全国枠推薦制度の導入について、詳細の公表が 7 月であったことから、周知期間が短く広報が十分とはいえなかった。全国 32 道府県から 250 人の応募があったとはいえ、うち 82 名が愛知県からで、これに岐阜、三重、静岡を加えると 180 人(72%)が東海 4 県からの応募である。東海地域以外からの応募者を増やすための広報活動にも力を入れる必要がある。

推薦入試合格者に対する「入学前オリエンテーション」の実施に関しては、非常に好評であったが、1 日のオリエンテーションで全員に「気づき」が生まれ、それが共有されたとは必ずしも

言えない面もあり、「楽しかった」というレベルにとどまっている生徒もいたようである。プログラムの内容と仕掛けなどについて今後さらに具体的に検討し、フィードバックする必要がある。

5. 平成 26 年度に向けての方策

まず入試制度改革および広報の観点から、以下の方策について具体策を実施ないし検討する。第一に、グローバル人材育成推進室と入試広報室の連携を強化し、あらゆる入試広報活動の機会をとらえて本学のグローバル人材育成推進事業および推薦入試制度についてアピールする。そのため、①明確でわかりやすいアドミッション・ポリシー、②グローバル人材育成推進事業の全体像が簡単にわかる広報コンテンツ(ターゲットは高校生、教師、保護者)、③平成 26 年度にスタートする新カリキュラムにおける「グローバル人材プログラム」等の特色、を整理し、発信する。さまざまな高大連携事業(講演会、模擬授業等)も広報機会として活かしていく。

第二に、新たにスタートした全国枠推薦入試の合格者に対する入学後のフォローアップ調査を行う。当該推薦枠による入学者の成績パフォーマンスや学科・専攻での影響力、大学全体へのインパクトなど、その効果を量的、質的に分析していく。

第三に、応募者がゼロまたは極めて少なかった都道府県をターゲットとした広報である。文 科省の「スーパーグローバル・ハイスクール」への応募高校、採択高校などの情報も参考に、 全国レベルでの広報に際しては、どこにフォーカスするか検討することが必要である。

第四に、愛知県が進める「あいち国際戦略プラン」(平成 25 年度~29 年度)の中に位置づけられているグローバル人材育成推進事業(スーパーイングリッシュ・ハブスクール事業等)との連携ないし接続など、様々な高大連携のあり方を検討する。

最後に、推薦入試合格者に対する入学前指導の観点から、以下の方策を実施ないし検討する。第一に、今年度はじめて実施した「入学前オリエンテーション」について、その成果と課題を分析し、来年度のプログラムの改善に活かす。このプログラムの効果を探るため、参加した生徒の入学後の成績パフォーマンスや学科・専攻での影響力、大学全体へのインパクトなどについてフォローアップを行う。第二に、全国枠の推薦合格者(2月12日合格発表)に対しても同様のオリエンテーションを実施することが可能かどうか、日程的な面も含め検討する。

13. グローバルキャンパスへの取り組み

1. 概要

iCoToBa(多言語学習センター)の設置と、そこで実施する授業を担当するため、本学では 6 名の外国人教員を新たに雇用し、ネイティブスピーカーによる徹底した語学教育環境の整備を開始した。また、外国語学部学生の 60%以上が単位認定を伴う留学を経験するという目標を達成すべく、国際交流室を中心として学術交流協定大学の拡充に努めている。こうした大学の語学教育環境の整備や学生支援体制のグローバル化に伴い、外国人教員や、外国人留学生の受け入れは増加し、海外留学に挑む本学学生も飛躍的に増加することが期待され、雇用手続きや協定書類を扱う事務系職員の語学能力向上は必須課題となっている。本学の平成 25 年度の重点施策においても「グローバル化の推進に合わせて、事務職員の英語力向上を図る。」が挙げられており、大学全体を挙げてグローバルキャンパス化に着手することとなった。

2. 平成 24 年度/25 年度の目標

- a) 学術交流協定大学の拡充を図るため、まずは英語を主とした大学情報発信を展開する。 英語版大学ホームページをリニューアルし、海外の大学が求める適切な大学情報・教育情報(大学運営基本情報、設置学部・学科、大学組織および所属教員とその主要研究、所在地基本情報等)の最新情報を掲載する。
- b) 海外での大学フェアに出展や海外協定大学を訪問する際に大学紹介の重要なツールとなる大学案内、グローバル人材育成推進事業に係るパンフレットの英語化を実施する。
- c) 事務系職員の英語運用能力の強化をスタッフディベロプメントの課題の一つとして位置付け、TOEIC の目標スコアを 800 点に設定する。
- d) iCoToBa の開設に伴い、国際交流室やキャリア支援室など学外の機関や団体、企業との関係性が高い施設については、高校生や学外からの来学者にその位置が一目で分かるような、掲示アイコンを設置する。

3. 平成 24 年度/25 年度の実績・評価

①英語による情報発信

平成 24 年度の秋から、これまで学長の諮問機関であった広報小委員会を、全学的な組織に位置づけ、広報の戦略的な手法の検討を開始した。英語版大学ホームページを大幅にリニューアルし、Fast Facts、Academic Calendar、Statistics に最新で正確な情報を掲載すると共に、「Aichi Prefectural University on YouTube」として英語による大学紹介 DVD をYoutube に公開し、これまで撮りためた学内の行事や風景など魅力的な写真を Photo Gallery にまとめて掲載した。また、在籍している留学生に取材して「Student Voice」や「One week of an International Student」に学生のリアルな生活情報を掲載し、受け入れ留学の

促進につながる工夫をした。

また、国際交流室ホームページ、グローバル人材育成推進事業ホームページ、iCoToBaホームページを立ち上げ、高校生や本学学生向けにプロジェクトの最新情報を提供すると共に、国際交流室や多言語学習センターの利用促進につなげるネット上のツールとして活用し、またそれを事業のアーカイブとして利用できる仕組みを構築した。

②海外への情報発信の工夫

日本語版の大学案内を単に英訳したものを製作するのではなく、海外の大学の視点で、本学の魅力を紹介することに加え、愛知県と愛知県で学ぶことの魅力を紹介し、本学へ留学を希望する学生や本学との学術協定を締結する大学を惹きつける内容に工夫を凝らした。

③職員の語学力向上の取り組み

勤務時間内で語学研修を受講できるよう、iCoToBa に職員が受講できる授業を開設し、1月のTOEIC 受験をめざし、3人の職員が受講した。また、職員全員にTOEIC 受験を奨励するとともに、平成25年7月には事務局長から全職員宛に、英語学習支援 e-Learning「ALC Net Academy 2」の利用促進が通知され、希望者 60 人にアカウントが配付された。

④グローバル化に対応する学内体制の整備

大学の国際化が進んでいる、国際教養大学、立命館アジア太平洋大学、上智大学、南山 大学を視察し、学内のグローバル化や施設案内にどのような工夫がされているか調査を実施 した。その結果から、本学の国際交流室およびキャリア支援室、学生支援室を一つの施設に 統合して業務の効率化を進めると共に、留学支援や就職支援、奨学金支援等がスムーズに 連動する学生支援体制に着手した。また同時に、教務の対応カウンターと学内の配置図看板 を改修して、取り扱う業務内容を日本語と英語で表示し、施設利用者の利便性を向上させた。

4. 平成 26 年度に向けての方策

海外からのアクセスを意識し、より惹きつけるコンテンツの表現方法を模索する。具体的には、学生の視点でとらえた自大学紹介の動画を学生自身が撮影し、作成した動画を多言語化して大学HPに掲載するプロジェクトを展開する。学生目線でのよりリアルな大学生活を発信していくことで、本学での学びををより身近に感じられるような広報を展開する。また、グローバル関連や iCoToBa(多言語学習センター)の最新イベント情報、国際交流室で行われる留学関連の情報をタイムリーに発信し、学内で活発に実施されている事業を広く公開していくことに努める。

主要大学フェア(NAFSA、APAIE、QS)等に本学のブースを出すことを計画しており、より PR 効果の高い大学案内に改良する。三つ折り型チラシなど、海外への持ち運びにに便利な

サイズを検討し、シチュエーションに応じた効果的な広報媒体を作成する。

平成 28 年度には全体の 10%の職員が TOEIC800 点を取得するという目標を達成するために、職員用 TOEIC 講座を引き続き開設すると共に、英語学習支援 e-Learning「ALC Net Academy 2」の更なる利用を促す。また、学内の主要文書や外国人教員の雇用手続きに関する書類一式の英語化を徹底するため、若手事務職員を中心としたワーキンググループを立ち上げ、各部署におけるグローバル化に関連する問題点を集約し、英語を主とした雛形およびマニュアルを作成して学内に公開する。

屋外・屋内のいたる所に設置されている学内誘導サインや案内板を見直し、建物や学部別に色分けして視認性を高めるなど、レイアウトの工夫やイラストの使用することで掲示のユニバーサル化を促進する。

14. 資料

14-1. グローバル人材育成推進室会議開催一覧

【表 38 平成 24 年度グローバル人材育成推進室会議開催一覧】

	-		
開催日	主たる審議・報告事項		
10 日 4 日	グローバル人材育成推進室要綱		
10月4日	グローバル人材育成推進事業に係る教員公募		
10 日 17 日	外国語検定試験助成制度		
10月17日	グローバル人材を見据えた入試制度改革についての検討		
10 日 91 日	海外協定大学の新規開拓の進捗状況		
10月31日	留学生受け入れ体制の整備		
11 日 15 日	キックオフセミナー		
11 月 15 日	多言語自主学習センターの設備、教材、プログラム検討状況		
10 ⊞ 01 □	e-portfolio(manaba)の導入		
12月21日	多言語自主学習センター(iCoToBa)準備委員会報告		
1 日 11 日	シベリア連邦大学短期留学受入プログラムの実施方法		
	海外協定大学開拓調査計画書の申請		
0 ∃ 00 □	グローバル人材育成推進事業に係るシステム関連の業務委託		
2月20日	来年度新規事業計画選定のルール		
2 月 € □	グローバル人材育成プログラム		
3月6日	平成 24 年度予算執行状況		
9 月 10 □	平成 25 年度グローバル人材育成推進室体制		
3月18日	「グローバル人材プログラム」ガイダンス実施体制		
	開催日 10月4日 10月17日 10月31日 11月15日 12月21日 1月11日 2月20日 3月6日 3月18日		

【表 39 平成 25 年度グローバル人材育成推進室会議開催一覧】

_				
□	開催日	主たる審議・報告事項		
第1回	4月2日	グローバル推進室年間事業計画		
	4月2日	e-portfolio(manaba)運営体制		
笠 0 同	4 ∃ 10 □	グローバル人材プログラム履修システム		
第2回 4月12日		本年度予算執行の方向性		
第2日 4月96日		海外協定大学開拓進捗状況		
第3回	4月26日	インターンシップ		
<i>#</i> 5 4 □ ▼ □ 10 □		2013 前期 iCoToBa 科目履修登録状況		
第4回	5月10日	グローバル人材プログラム修了要件		

	I			
第5回	5月24日	iCoToBa 履修登録管理システムの構築		
74 0 11		夏のイマ―ジョン・プログラムの実施		
第6回	6月7日	グローバル人材プログラム:情報検索講座の実施		
37 O E	07,14	西日本第1ブロック共同ワークショップパネリストの決定		
第7回	6月28日	2013後期グローバル人材プログラム開講科目		
为 / 巴	0 Д 20 н	留学生交流支援制度の選考結果		
学 0日	7月5日	グローバル講演会の開催について		
第8回	7月3日	海外留学危機管理		
数 0 回	7 H 10 H	グローバル人材育成推進事業ホームページ立ち上げ		
第9回	7月19日	manaba セミナー報告		
//: 10 E	0 11 0 11	iCoToBa サマープログラム		
第 10 回	8月2日	後期グローバル人材プログラムガイダンス・教務担当者		
/// 11 	0 0	グローバル人材プログラム科目成績評価基準・方法		
第 11 回	9月3日	西日本第1ブロック共同ワークショップパンフレット作成		
//: 10 E	0 0 0 0	県大ドイツデーの開催について		
第 12 回	9月27日	留学復学者向けグローバルガイダンスの実施		
//: 10 I	10 110 1	Otterbein University(米国)との MOU 締結		
第 13 回	10月16日	語学検定試験願書提出者状況		
/// 1 4 E	10 11 00 11	グローバルセミナーの開催について		
第 14 回	10月30日	2014 春季 iCoToBa 事業		
		2014 年度新カリキュラムに伴うグローバル人材プログラム科		
第 15 回	11月13日	目変更について		
		留学フェア		
<i>b</i> /t 1 0 □	11 [00]	グローバルキャリア育成セミナー		
第 16 回	11月28日	TOEIC&キャリア講座の実施について		
bb 4 ■ □	10 7 10 7	平成 25 年度 TOEIC 受験結果		
第 17 回	12月13日	外国語学部推薦入試合格者入学前オリエンテーション		
the a c	10 0 0 0	ドイツ・チュービゲン大学協定締結交渉		
第 18 回	12月25日	外国語到達目標		
## 4 0 H	4 8 40 8	秋の行政レビュー説明会報告		
第 19 回	1月10日	イースト・アングリア大学(英国)夏期集中講座		
第 20 回	1月23日	H25 年度 e-Learning 契約状況		
## 0.1 H	0.01.7	キャリア支援室との連携		
第 21 回	2月14日	H25 年度インターンシップ実施状況		
予定:第 22 回	[(2月27日)	、第 23 回(3 月 14 日)、第 24 回(3 月 27 日)		

14-2. iCoToBa 委員会開催一覧

【表 40 平成 25 年度 iCoToBa 委員会開催一覧】

口	開催日	主要な審議事項
第1回	4月18日	iCoToBa 委員会の今年度の運営について
第2回	4月23日	グローバル人材プログラム iCoToBa 指定科目について
第3回	5月9日	新カリキュラムと iCoToBa プログラムの関係
		夏季休暇中の iCoToBa 講座について
第4回	5月30日	新規 iCoToBa 行事
		iCoToBa 年間スケジュール
第5回	6月7日~20日	夏のコース授業内容、募集手順
	(manaba 会議)	iCoToBa Activity Space 開放について
第6回	6月27日	e-Learning 利用促進方略
		平成 25 年後期 iCoToBa プログラムの方針
第7回	7月1日~5日	アルクネットアカデミーの法人職員利用について
	(manaba 会議)	
第8回	7月18日	iCoToBa 内 manaba サポートデスクの設置
		平成 25 年後期 iCoToBa プログラム時間割
第9回	7月30日	人事異動について
第 10 回	8月6日	e-Learning 利用促進対策
第 11 回	9月26日	新聞・雑誌購読について
		iCoToBa ホームページについて
第 12 回	10月31日	教材印刷費の企画
第 13 回	11月12日	人事異動について
第 14 回	11月27日	春季休暇中の iCoToBa 実施事業
		iCoToBa 年報について
第 15 回	12月25日	TOEIC FD での報告
		平成 26 年度新入生対象ガイダンスについて
第 16 回	1月30日	平成 26 年度グローバル人材育成推進事業計画
第 17 回	2月19日	平成 26 年度前期 iCoToBa スケジュールについて
第 18 回	3月中旬	予定

平成 24~25 年度 愛知県立大学グローバル人材育成推進事業 外部評価・実績報告書

平成26年6月30日発行

発行:愛知県立大学グローバル人材育成推進室 〒480-1198 愛知県長久手市茨ケ廻間 1522 番地 3 E 棟 2 階

> Tel: 0561-76-8833 E-mail: global@for.aichi-pu.ac.jp http://www.for.aichi-pu.ac.jp/global/